

平成29年度
香川県立保健医療大学大学院
保健医療学研究科

看護学専攻

臨床検査学専攻

学生募集要項



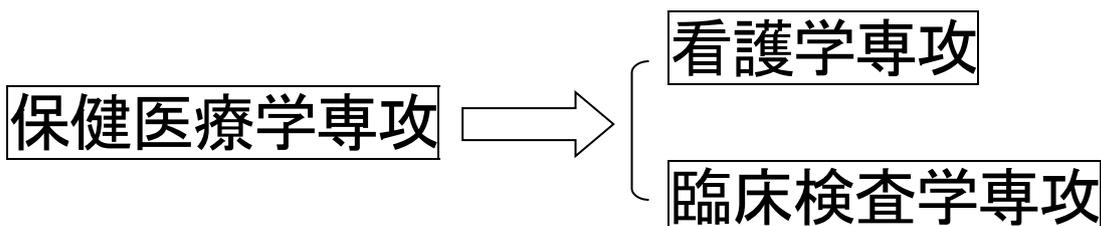
- 出願期間 平成28年9月9日(金)～9月16日(金)
- 試験期日 平成28年9月24日(土)



香川県立保健医療大学

大学院保健医療学研究科の改組について

本学では、平成 29 年 4 月、下記のとおり保健医療学研究科の改組を行います。



この改組に伴い、修士課程保健医療学専攻の学生募集を停止し、看護学専攻(5人)と臨床検査学専攻(3人)の学生を募集します。

※なお、博士後期課程の設置認可が得られましたら、現行の修士課程は、平成 29 年 4 月から博士前期課程に改めます。

目 次

共通事項

I 募集人員	1
II 選抜区分	1
III 出願資格	1
IV 事前相談	2
V 出願資格審査	2
VI 出願手続	3
VII 入学願書等の記入要領	6
VIII 入学願書等の書類	7
IX 選抜方法等	8
X 合格発表	9
XI 入学手続等	10
XII ホームページ	11
XIII 問い合わせ先	11
入学試験会場案内図	12

大学院保健医療学研究科

看護学専攻	13
I 基本理念・目的	13
II アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー	13
III 看護学専攻の概要	14
1 専攻の名称及び構成	14
2 学位の名称	14
3 教育目的・教育課程の特色	14
4 授業科目一覧	17
5 修了要件等	18
6 授業科目の概要	18
臨床検査学専攻	35
I 基本理念・目的	35
II アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー	35
III 臨床検査学専攻の概要	36
1 専攻の名称及び構成	36
2 学位の名称	36
3 教育目的・教育課程の特色	36
4 授業科目一覧	38
5 修了要件等	39
6 授業科目の概要	39

共通事項

I 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	看護学専攻 研究コース 専門看護師コース（精神看護）	5人 (社会人選抜を含む)
	臨床検査学専攻	3人 (社会人選抜を含む)

II 選抜区分

各専攻において、「一般選抜」及び「社会人選抜」を行います。ただし、出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

III 出願資格

1 一般選抜

出願できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとします。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成29年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定により文部科学大臣の指定した者
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
- (10) 学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者又はこれに準ずる者として学校教育法施行規則第160条に規定する者であって、本学大学院において、本学の所定の単位を優秀な成績で修得したと認める者

※ 出願資格(8)～(10)により出願を希望する者は、出願前に個別の出願資格審査が必要です(「V 出願資格審査」を参照してください)。

2 社会人選抜

出願できる者は、次の基準をすべて満たすものとします。

- (1) 「1 一般選抜」の出願資格の条件を満たす者
- (2) 看護学専攻においては、看護師、保健師又は助産師の免許を有する者
臨床検査学専攻においては、臨床検査技師の免許を有する者
- (3) (2)の各国家資格者として、通算3年以上の実務経験を有している者又は平成29年3月31日までに通算3年以上の実務経験が見込まれる者
※ 実務経験とは、医療機関並びに看護学関係・臨床検査学関係の教育・研究・行政機関での従事とします。詳細につきましては、事前相談の際、教員にご相談ください。
- (4) 看護学専攻専門看護師コースにおいては、上記(1)、(2)に加え、原則として臨床看護実践が通算5年以上を有している者又は平成29年3月31日までに通算5年以上の臨床看護実践(そのうち3年以上は専門看護分野の臨床看護実践)が見込まれる者

注 大学院設置基準に基づく授業時間などの特別措置

社会人の方が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条の規定により、必要に応じて、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行う途を設けています。

また、申し出により標準修業年限(2年)を超える一定期間の計画的な履修を認めることも可能としていますので、希望される方は、次の「IV 事前相談」による相談の際に、あわせて教員にご相談ください。

IV 事前相談

出願を希望する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と相談することが必要です。

看護学特別研究・課題研究(32～34ページ)、臨床検査学特別研究(48～50ページ)の「講義等の内容」及び「担当教員」を参照のうえ、希望する教員との事前相談を行ってください。

事前相談は、平成28年7月25日(月)から8月22日(月)までに、香川県立保健医療大学事務局教務・学生担当(TEL 087-870-1212)まで連絡してください。なお、この申し込みの受付時間は、午前9時から午後5時まで(土曜、日曜及び祝日を除く。)とします。

また、次の「V 出願資格審査」による申請を希望する者は、当該申請前まで(平成28年8月22日(月)まで)に事前相談をすませておく必要がありますので、留意してください。

V 出願資格審査

一般選抜出願資格(8)、(9)又は(10)(社会人選抜で一般選抜出願資格(8)、(9)又は(10)に該当する者を含む。)で出願を希望する者は、あらかじめ、出願資格の審査を行いますので、**2**の書類を封筒(封筒表面に「保健医療学研究科出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。)に入れ、「書留速達郵便」で郵送又は持参してください。

1 申請期間

平成28年8月15日(月)から8月22日(月)まで

- ・ 郵送する場合 8月22日(月)午後5時必着とします。
- ・ 持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜及び日曜は受け付けません。

2 提出書類

- (1) 一般選抜、社会人選抜共通
 - ① 出願資格審査申請書(本学所定様式)
 - ② 卒業、修了(見込)証明書(最終出身学校所定様式)
 - ③ 成績証明書(最終出身学校所定様式)
 - ④ 審査結果通知返信用封筒(長形3号の封筒の表面に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し、392円分の郵便切手を貼付したもの)
- (2) 社会人選抜及び一般選抜出願資格(9)に該当する者のみ
 - ① 在職期間証明書(本学所定様式)
 - ② 免許証の写し(看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の国家資格に係る免許証の写し(A4サイズに縮小のこと))

※1 上記書類の作成に際しては、記入要領及び「VI-3 出願書類」の摘要欄を参照してください。

※2 申請書類受理後は、提出された書類は、理由のいかんを問わず返還しません。

※3 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。

3 提出先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 審査結果の通知

出願資格の審査結果は、平成28年9月8日(木)に本人あてに郵送で通知します。

平成28年9月13日(火)までに届かない場合は、前記「3 提出先」に電話で照会してください。なお、認定された方は、所定の期間内に出願手続をしてください。

VI 出願手続

1 出願期間

平成28年9月9日(金)から9月16日(金)まで

- ・郵送する場合 9月16日(金)午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜及び日曜は受け付けません。

2 出願方法

志願者は、出願書類を一括して本学所定の出願書類提出用封筒に入れ、「書留速達郵便」で郵送又は持参してください。

3 出願書類

出願書類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入 学 願 書	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入してください。
写 真 票・受 験 票	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入し、縦4cm×横3cmの同じ写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの、カラー・白黒どちらでも可)の裏面に氏名を明記し、所定の欄(2か所)に貼付してください。
卒 業 ・ 修 了 (見 込) 証 明 書	◎	◎	出身大学の長又は出願資格に該当する出身学校長が作成したものを提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
成 績 証 明 書	◎	◎	出身大学の長又は出願資格に該当する出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 なお、成績証明書の成績欄に編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学前の学校の成績証明書も併せて提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
学 士 の 学 位 授 与 (見 込) 証 明 書 等	○	○	「Ⅲ 出願資格」の1-(2)で出願する者が提出してください。 学位授与機構が発行する学士の学位授与(見込)証明書若しくは短期大学長又は高等専門学校長の発行する学位授与申請(予定)証明書を提出してください。
志 願 理 由 書	◎	◎	(本学所定様式) 本研究科への志望動機、志望専攻・領域において希望する研究テーマを記入してください。
在 職 期 間 証 明 書	○	◎	(本学所定様式) 「Ⅲ 出願資格」の1-(9)又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
免 許 証 の 写 し	○	◎	「Ⅲ 出願資格」の1-(9)又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の国家資格に係る免許証の写しをA4サイズに縮小してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。

出願書類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入学選考料	◎	◎	入学選考料は、30,000 円です。 30,000 円の <u>普通為替証書</u> を出願書類と併せて送付してください。 ※ <u>普通為替証書</u> には何も記入せず、ゆうちょ銀行が振り出したままの状態 ^① で提出してください。
「納付書(兼)証券領収書控え・証券領収書」用紙	◎	◎	(本学所定様式) 「 <u>納付書(兼)証券領収書控え・証券領収書</u> 」用紙には、上記普通為替証書の「記号番号」等の必要事項を記入して、普通為替証書に添えて送付してください。
受験票等返送用封筒	◎	◎	(本学所定様式) 受験票及び証券領収書を返送するための封筒です。 住所、氏名、郵便番号を記入し、切手 392 円分を貼付して提出してください。
<p>※1 ◎印は全員必須、○印は該当者のみ提出する書類です。</p> <p>※2 外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。それが困難な場合は、ご相談ください。</p> <p>※3 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。</p> <p>※4 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。ただし、「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。</p> <p>※5 日本国籍を有しない者は、入学に際して、別途提出いただく書類があります。</p>			

4 出願先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

5 出願上の注意

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理できませんので、十分注意してください。
- (2) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 出願書類及び入学選考料は、出願書類受理後、理由のいかんを問わず返還しません。
- (4) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので、注意してください。
- (5) 出願手続を完了した者には、受験票及び証券領収書を郵送します。
なお、平成28年9月20日(火)になっても受験票が届かない場合は、前記「4 出願先」に電話で照会してください。
- (6) 障がい等を有する等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者は、平成28年8月22日(月)までに、あらかじめ前記「4 出願先」に連絡し、相談してください。
- (7) 出願書類から取得した個人情報は、入学試験に係る資料としてのみ利用し、取得した個人情報等を第三者に提供することはありません。

VII 入学願書等の記入要領

◎ 共通事項

- 1 *印の欄には、記入しないこと。
- 2 *印の欄を除き、各書類の注意事項等にそって必要事項を記入し、又は該当項目に○をつけること。
- 3 記入に当たっては、黒色のペン又はボールペンを使用し、楷書ではっきりと記入すること。

○ 入学願書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「出願資格」欄は、大学等の名称及びその卒業等年月を記入し、事前の出願資格審査で認定を受けた者は、その認定番号を記入すること。
- 4 看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。
- 5 「現住所」及び「合格通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。
なお、「合格通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。
- 6 裏面の「履歴書」欄には、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。
- 7 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

○ 写真票・受験票

- 1 それぞれ所定の欄に縦4 cm×横3 cmの同一写真を貼付すること。
- 2 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー・白黒のどちらでも可、出願前3か月以内に撮影したものであること。
- 3 写真の裏面に、氏名を明記しておくこと。
- 4 記入内容が、入学願書の記載内容と一致するよう確認すること。
- 5 その他、受験票裏面の注意事項を参照のこと。

入学願書・写真票・受験票は切り離さないで提出すること。

○ 出願資格審査申請書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「履歴事項」欄の「学歴」及び「実務経験(職歴)」は、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

また、看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。

- 4 「現住所」及び「審査結果通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。

なお、「審査結果通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。

- 5 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

上記の他、各書類に記載している注意事項に従って記入すること。

VIII 入学願書等の書類(別添封筒に在中)

1 出願書類

- (1) 入学願書・写真票・受験票
- (2) 志願理由書
- (3) 在職期間証明書
- (4) 納付書(兼)証券領収書控え・証券領収書
- (5) 受験票等返送用封筒
- (6) 出願書類提出用封筒

2 出願資格審査書類

- (1) 出願資格審査申請書

Ⅷ 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験（専門科目、英語）及び面接の結果並びに出願書類等を総合して、総合得点で合否を判定します。

なお、総合得点と同点の場合は、専門科目の点数が高い者を優先します。

1 試験科目等

科目等	配点	備考
専門科目	200	志望した専攻に関する問題
英語	100	英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
面接	100	個人面接

※ 社会人選抜については、英語の得点について、優遇措置を講じます。

2 試験日程（一般選抜・社会人選抜共通）

試験日	試験科目等	時間
平成 28 年 9 月 24 日 (土)	受験者集合	9:00
	注意事項等連絡	9:00 ～ 9:10
	専門科目	9:15 ～ 10:45
	英語	11:00 ～ 12:00
	昼食	12:00 ～ 12:50
	受験者集合	12:50
	面接	13:00 ～

3 受験上の注意事項

- (1) 入学試験当日は、午前9時までに試験室に入り、受験票を机の上に置いて着席してください。
なお、受験票を忘れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。
- (2) 集合時間に遅刻した場合は、学力試験開始後 30 分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長及び面接試験における遅刻は認めません。
なお、面接は受験者ごとに開始時間が異なりますので、注意してください。
また、学力試験を受験しなかった者は、面接を受けることはできません。
- (3) 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- (4) 机の上には、受験票、HB又はBの鉛筆(シャープペンシル)、消しゴム、時計(計時機能だけのもの)、英和辞書1冊(英語の試験のみ(電子辞書の持ち込みは不可))以外のものは置かないでください。
- (5) 携帯電話、スマートフォン、PHS等は、他の受験生の迷惑になるので、電源を切ってカバンの中にしまっておいてください。
- (6) 昼食は、各自で準備してください。

4 試験会場

香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

- ※1 試験会場は、12 ページの**入学試験会場案内図**を参照してください。
- ※2 試験会場の下見は試験前日にできますが、建物内への立入りはできません。
- ※3 合否電報・電話の取扱い等の勧誘をする者があっても、**本学とは一切関係がありません**。トラブル等が生じてても責任を負いかねますので注意してください。

X 合格発表

1 発表日・発表方法

平成 28 年 10 月 6 日(木)午前 9 時に、香川県立保健医療大学 アプローチ広場掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には、文書で通知します。

また、本学のホームページ（<http://www.kagawa-puhs.ac.jp/>）上においても、合格者受験番号を掲載します(同日午前 9 時過ぎの予定)。

なお、ホームページ掲載は、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は、本学掲示板、合格通知書で行います。

2 追加合格

入学手続き者が入学定員に満たなかった場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格は、平成 28 年 10 月 14 日(金)午後 5 時以降、該当者あてに入学願書に記載された連絡先に電話で通知します。この電話連絡は、平成 28 年 10 月 17 日(月)までに行うよう配慮しますので、この期間は、入学願書の連絡先に所在する等、本人と直接連絡が取れるようにしておいてください。

なお、追加合格者の入学手続等については、追加合格通知時に指示します。

3 その他

- (1) 電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。
- (2) 合否以外の受験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- (3) 香川県個人情報保護条例に基づく入学試験成績の簡易開示について
受験者本人の請求に基づき、次の要領により開示します。

- ・請求期間

平成 28 年 10 月 6 日(木)～平成 28 年 11 月 7 日(月)(土曜、日曜及び祝日を除く。)

- ・開示内容

科目別得点及び総合得点

- ・請求方法

受験者本人が、本学事務局窓口に本学の受験票を持参のうえ、請求してください。
(受付時間は、9:00～12:00 及び 13:00～17:00 です。)

XI 入学手続等

1 入学手続の期間

平成 28 年 10 月 13 日(木)～平成 28 年 10 月 14 日(金)の午後 5 時必着
直接持参の受付時間は、午前 9 時～午後 5 時までとします。

2 手続場所

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当

TEL 087-870-1212

3 入学手続

- (1) 上記 2 の場所へ、4 の入学手続に要する提出書類等を一括し、書留速達扱いの郵便又は直接持参により提出してください。
- (2) 上記 1 の期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (3) 入学手続を行うのは、代理人でも差し支えありません。
- (4) **入学金は、納入後、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (5) 詳細については、合格通知時に通知します。

4 提出書類等

- (1) 誓約書(本学所定様式)
- (2) 卒業(修了)証明書(卒業(修了)見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (3) 学位授与証明書(学位授与見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (4) 入学金
- (5) 縦 4 cm×横 3 cm の同じ写真 4 枚(正面上半身無帽、背景なし、最近 3 か月以内に撮影したもの、カラー、裏面に氏名を明記したもの)
- (6) 住民票(下記 5—(1) の県内者に該当する者のみ)

5 入学金 (予定金額)

- (1) 県内者 197,400 円
- (2) 上記以外の者 366,600 円

※ 「県内者」とは、平成 28 年 4 月 1 日以前から引き続き香川県内に住所を有する者並びにその配偶者及び一親等の親族をいいます。

6 授業料 (予定金額)

- (1) 年額 535,800 円
- (2) 各年度に係る授業料は、前期及び後期の 2 学期に区分して納付するものとし、それぞれの学期において納付する額は、年額の 2 分の 1 に相当する額とします。
 - ① 前期納付期限 4 月末日 (267,900 円)
 - ② 後期納付期限 10 月末日 (267,900 円)
- (3) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

7 授業料減免制度

経済的理由その他やむを得ない事情により授業料の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認めた学生に対し、授業料の全部又は一部を免除する制度等があります。

8 奨学金制度

人物、学業とも優れ、かつ、健康であって、経済的理由により修学が困難な学生に対して独立行政法人日本学生支援機構奨学金制度があります。奨学金は、終了後返還することとなります。

- ・ 第一種奨学金（無利子貸与）

貸与月額（平成28年度） 50,000円、88,000円のうち希望額を選択

- ・ 第二種奨学金（有利子貸与）

貸与月額（平成28年度） 5万円、8万円、10万円、13万円、15万円のうち希望額を選択

9 その他の必要経費等

入学後には、教科書、教材等に係る経費及び後援会費等が別途必要になります。

後援会費については次のとおりです。

- ・ 年会費 20,000円
- ・ 教材用経費等 2年間分 30,000円
- ・ 納付期限 4月末日（年会費は、2年次も必要です。）

なお、学生は傷害事故及び賠償事故等についての保険に加入することとしていますが、当該保険料は後援会費の中から負担することとしています。

10 その他

学生寮はありません。

XII ホームページ

大学案内や入試情報を掲載したホームページを開設しています。

URL <http://www.kagawa-puhs.ac.jp/>

XIII 問い合わせ先

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当

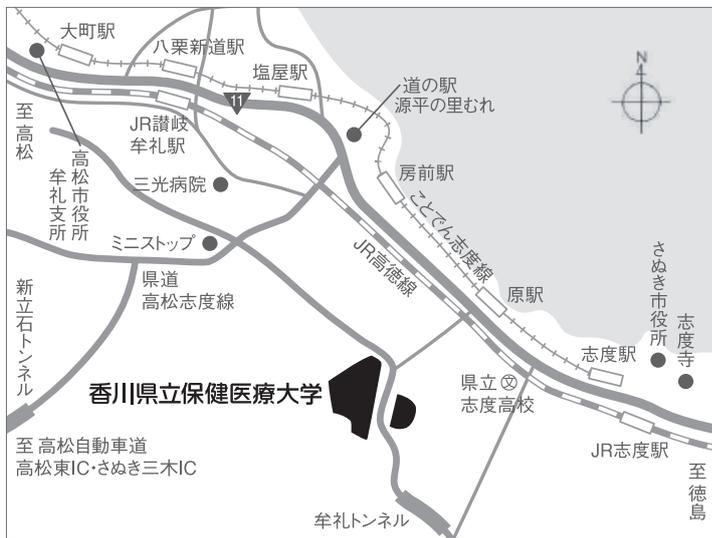
〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

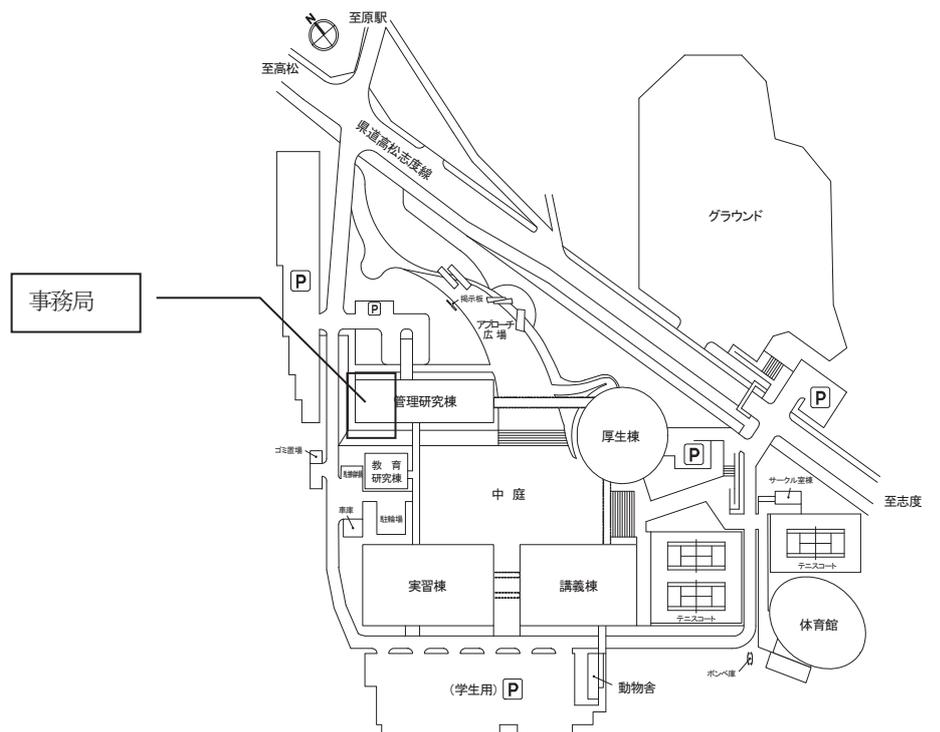
TEL 087-870-1212

FAX 087-870-1202

入学試験会場案内図



- 西方面から
高松から 国道11号 車で30分
ことでん志度線原駅下車 徒歩10分
- 東方面から
JR高徳線 志度駅から 車で5分



看護学専攻

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の「健康と自立」の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人として、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、県民の健康増進と生活の質の向上、次世代育成支援に寄与する能力を修得することを目的とする。

II 看護学専攻のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科看護学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 生命の尊厳を畏敬する深い人間愛と洞察力をもつ人
- (2) 看護の課題を科学的に探究し、エビデンスを活用する専門性を持ちリーダーシップの発揮を志す人
- (3) 看護実践や教育・研究に対する真摯な構想力や想像力、実践力を高めようとする人
- (4) 看護学の発展に寄与できるアイデンティティを形成し、知識基盤社会の発展を目指して真理の追究を志す人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育目的、看護学専攻の教育目的に則って、高度先進医療を担うことができる質の高い看護実践能力を持ち、地域の保健医療活動に貢献するとともに、看護実践、看護教育、看護研究の開拓ができる高度専門職業人としての看護師、助産師、保健師並びに高度な看護実践の質保証や活動の拡大に取り組む専門看護師を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

看護学専攻は、研究コースの基盤開発看護学、健康生活支援看護学、次世代育成看護学の3領域と、専門看護師コースの精神看護で構成する。

研究コースでは、専攻共通科目 8 単位以上(必修 6 単位、選択 2 単位以上)、専門共通科目 8 単位以上、専門領域科目 4 単位以上、特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得とする。

専門看護師コースでは、専攻共通科目 2 単位以上(必修 2 単位)、専門共通科目 10 単位以上、専攻分野共通科目 16 単位、実習科目 6 単位、課題研究 4 単位の合計 38 単位以上を修得とする。

- (1) 基盤開発看護学領域では、「個人が看護の学習や仕事を通して自己実現のプロセスをたどるキャリア開発」、「看護組織の人的資源である個人と集団の潜在能力を顕在化していく能力開発」、「看護組織の個人能力を開発し、それを組織能力に結実させていく人材開発」について学修する。
- (2) 健康生活支援看護学領域では、健康増進の観点から、地域に暮らす高齢者や精神的、身体的健康障害を有する人など様々な生活者とその家族並びに共同体などに対して、自立した生活能力と健康管理能力を育み、それぞれの立場でより主体的な健康生活を支援する看護について学修する。
- (3) 次世代育成看護学領域では、次世代の育成を支援する観点から、周産期の妊産褥婦、親や家族の健康と子どもの発達支援、学童期・思春期からのヘルスプロモーション教育の実践

及び乳幼児虐待予防など、育児に伴う様々な問題を考察、解決し、子育て支援の方法について学修する。

- (4) 専門看護師(精神看護)では、精神看護アセスメント論及び精神看護セラピー・精神看護援助論などの知識と技術を統合し、精神看護の専門看護師に必要な高度な実践能力を展開する方法について学修する。
- (5) 特別研究は、研究課題となる専門領域科目の特論と演習における学修に連動した研究を遂行し、専門性を深く探究した修士論文を完成とする。課題研究は、精神看護の専門看護師としての専門性を深く探究した修士論文を完成とする。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で修士論文を作成し、本研究科が行う修士論文についての研究成果、修士論文の審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に看護学の修士学位を授与する。

- (1) 看護実践能力の向上を目指し、より専門性、独創性を重視した新しい看護実践方法を探究し、チーム医療の場でリーダーシップが発揮できる能力を修得していること。
- (2) 看護学の発展に貢献するために、看護の課題を科学的に探究し、エビデンスを活用した教育・研究・実践ができる能力を修得していること。

Ⅲ 看護学専攻の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	コース名等	
保健医療学研究科	看護学専攻	研究コース	基盤開発看護学領域
			健康生活支援看護学領域
			次世代育成看護学領域
		専門看護師コース	精神看護

2 学位の名称

修士(看護学)：看護学専攻の各コースの課程修了者

3 教育目的・教育課程の特色

(1) 看護学専攻の教育目的

看護学専攻は、研究コースと専門看護師コースの2コースで構成し、研究コースは、基盤開発看護学、健康生活支援看護学、次世代育成支援看護学の3つの専門領域で構成する。

①研究コース

次の能力を修得することを目的とする。

- (ア) 看護実践経験と既存の理論を統合した看護実践能力の向上を目指し、より専門性、独創性を重視した新しい看護実践方法を開拓し、チーム医療の場でリーダーシップが発揮する能力
- (イ) 地域の特性や変化する社会の要請に応じて、地域の保健・医療・福祉のニーズに対応

した健康増進と次世代育成支援活動を計画・実行し、人々の「健康と自立」の支援に貢献できるとともに、地域の保健医療施策に提言する能力

- (ウ) 医療技術の高度化、保健・医療・福祉施設の多様化、在宅療養者の増加等、看護を取り巻く環境が大きく変化するなかで、多様な施設や地域社会において看護を有機的に機能させ、看護の質を高めることができる高度な管理能力
- (エ) 優れた看護師、助産師、保健師の育成や社会人教育、また新しい看護実践方法の開拓など、看護学の発展に貢献できる教育・研究能力

②専門看護師コース

次の能力を修得することを目的とする。

- (ア) 看護学の専門性を基盤とした特定の専門分野の精深な専門知識と高度な技術を駆使して、卓越した直接的看護実践ができる能力
- (イ) 看護職者を初めとするケア提供者への教育指導やコンサルテーションを通して、自己の専門分野の知識技術及び卓越した看護実践能力を個人、チーム、組織全体に浸透させることができる能力
- (ウ) クライアント中心のヘルスケアサービス及びチーム医療を推進するために、倫理的問題の解決に向けて人や場を調整することができ、さらに組織の構造やシステムの変革に向けて様々な人々と協働し、チームの意欲や能力を引き出しながらリーダーシップが発揮できる能力
- (エ) 看護実践方法や看護ケア提供システムなどを変革するための介入評価研究ができ、成果を可視化させて、看護を社会にアピールできる能力
- (オ) 精神看護の知識や技術を他領域の看護に適用すること並びに看護職間の連携を図ることによって患者に良質で効率的なケアの提供ができる。また、看護師のメンタルヘルスの向上を支援できる能力

(2) 看護学専攻の教育課程の特色

看護学専攻は、研究コースと専門看護師コースの2コースで構成され、研究コースは基盤開発看護学、健康生活支援看護学、次世代育成看護学の3領域とした。専門看護師コースは精神看護からなる。

①研究コース

- (ア) 基盤開発看護学領域では、看護職が専門職として生涯に渡って成長発達し続け、その成果を実践や社会に貢献できる看護人材育成の体系化をめざす。生涯学習の視点から、看護基礎教育と看護継続教育（現任教育と卒後教育）を一貫したものとして捉え、いかに看護学生や看護職者の能力やキャリアを効果的に開発し、組織や社会に有為な人材を育てるかという観点から探究する。

本領域では、「個人が看護の学習や仕事を通して自己実現のプロセスをたどるキャリア開発」、「看護組織の人的資源である個人と集団の潜在能力を顕在化していく能力開発」、さらに、「看護組織の個人能力を開発しそれを組織能力に結実させていく人材開発」に関する概念を中心に位置づける。つまり、看護実践・看護教育・看護管理にお

ける人的資源の管理と開発を統合して、「看護専門職としての人の能力の開発及び育成」という観点から探究する。

- (イ) 健康生活支援看護学領域では、健康増進の観点から、地域に暮らす高齢者や精神的、身体的健康障害を有する人など様々な生活者とその家族並びに共同体などに対して、自立した生活能力と健康管理能力を育み、それぞれの立場でより主体的な健康生活を支援する看護を探究する。

本領域では、集団や共同体などの地域特性との関連性を中心にした看護について探究することを特色とする。特に、精神障害をもつ人とその家族のQOLの向上を目指す高度な精神看護実践方法の開拓や看取りも視野に入れ、人々のつながりに着目した地域ケアシステムの構築などに取り組むこととする。さらに、健康障害をもつ成人や老年者と家族の健康感やQOL、幸福感や生きがいなどを尊重した高齢社会における健康生活支援方法を探究する。

- (ウ) 次世代育成看護学領域では、次世代の育成を支援する観点から、周産期の妊産褥婦、親や家族の健康と子どもの発達支援、学童期・思春期からのヘルスプロモーション教育の実践及び乳幼児虐待予防など、育児に伴う様々な問題を考察、解決し、子育て支援の方法について探究する。

本領域では、少子社会における育成支援システムの構築に取り組み、より健康的なウェルネス志向型の看護について探究することを特色とする。特に、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、発達段階における健康課題の達成や問題の解決方法、愛着の発達支援の方法、母子と家族を対象とした助産診断技術の実践過程における問題と今日的課題及びよりよい助産ケアの実践など、少子社会における次世代育成の看護実践方法について探究する。

②専門看護師コース

- (ア) 専門看護師コース(精神看護)では、対象のメンタルヘルスの向上の観点から、複雑で解決困難な問題や課題を持つ個人・家族・集団・コミュニティ、看護職などに対して、専門看護師の立場で対象のセルフコントロール能力の向上を支援する看護を探究する。本コース(精神看護)では、精神看護アセスメント論及び精神看護セラピー・精神看護援助論などの知識と技術を統合し、精神看護専門看護師に必要な高度な実践能力を展開する方法について探究する。

- (イ) 看護学専攻の専門共通科目では、高度専門職業人あるいは教育・研究者として健康増進と次世代育成支援を推進し、保健・医療・福祉が統合した総合的サービスの提供に指導的立場で意欲的に取り組める看護師・保健師・助産師を育成することを目的に、「健康生活支援方法論」、「家族発達支援方法論」、「健康心理看護学特論」、「看護研究方法論」を配置した。また、卓越した看護実践能力を有する専門看護師(精神看護)の育成を目的に「看護教育学特論」、「看護管理学特論」、「看護コンサルテーション論」、「看護理論」、「看護倫理」を専門共通科目に配置した。

4 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考	
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
専攻共通科目	健康増進科学論	1 前		2	○				
	保健医療福祉論	1 前		2	○			オムニバス	
	チーム医療特論	1 後	2		○			オムニバス	
	疫学・統計学	1 前		2	○			オムニバス	
	生命・医療倫理論	1 後		2	○				
	英文献講読	1 前		2	○			オムニバス	
	小計(6科目)	—	2	10		—		—	
専門共通科目	健康心理看護学特論	1 後		2	○			オムニバス	
	健康生活支援方法論	1 前		2	○			オムニバス	
	家族発達支援方法論	1 後		2	○			オムニバス	
	看護理論	1 前		2	○				
	看護倫理	1 前		2	○				
	看護研究方法論	1 前		2	○			オムニバス	
	看護教育学特論	1 後		2	○				
	看護管理学特論	1 後		2	○				
	看護コンサルテーション論	1 後		2	○				
	小計(9科目)	—	0	18		—		—	
専門領域科目	基礎開発看護学領域	看護人材育成学特論	1 前		2	○			
		看護人材育成学演習	1 後		2		○		
		看護技術学特論	1 前		2	○			
		看護技術学演習	1 後		2		○		
		小計(4科目)	—	0	8		—		—
	健康生活支援看護学領域	地域精神看護学特論	1 前		2	○			
		地域精神看護学演習	1 後		2		○		
		公衆衛生看護学特論	1 前		2	○			オムニバス
		公衆衛生看護学演習	1 後		2		○		
		療養支援看護学特論	1 前		2	○			
		療養支援看護学演習	1 後		2		○		
		老年看護学特論	1 前		2	○			
		老年看護学演習	1 後		2		○		
		在宅看護学特論	1 前		2	○			
		在宅看護学演習	1 後		2		○		
	小計(10科目)	—	0	20		—		—	
	次世代育成看護学領域	育成支援看護学特論	1 前		2	○			
		育成支援看護学演習	1 後		2		○		
		子ども発達支援看護学特論	1 前		2	○			
		子ども発達支援看護学演習	1 後		2		○		
女性健康看護学特論		1 前		2	○				
女性健康看護学演習		1 後		2		○			
助産実践学特論		1 前		2	○				
助産実践学演習		1 後		2		○			
小計(8科目)	—	0	16		—		—		
専攻分野共通科目	精神保健医療福祉システム論	1 後		2	○				
	精神看護アセスメント論Ⅰ	1 前		2	○				
	精神看護アセスメント論Ⅱ	1 前		2	○				
	精神看護セラピーⅠ	1 前		2	○				
	精神看護セラピーⅡ	1 前		2	○				
	リエゾン精神看護論	1 後		2	○				
	精神看護援助論Ⅰ	1 後		2	○				
	精神看護援助論Ⅱ	1 後		2	○				
	小計(10科目)	—	0	22		—		—	
実習科目	精神看護 CNS 役割実習	1 後		3			○		
	精神看護直接ケア実習	2 通		3			○		
特別研究	看護学特別研究	2 通		10		○			
課題研究	小計(1科目)	—	0	10		—		—	
	課題研究	2 通		4		○			
合計(49科目)	小計(1科目)	—	0	4		—		—	
	合計(49科目)		2	108		—		—	

5 修了要件等

研究コースにおいては、専攻共通科目 8 単位以上(健康増進科学論、保健医療福祉論、チーム医療特論の 6 単位必修と選択 2 単位以上)、専門共通科目 8 単位以上、専門領域科目 4 単位以上及び特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得する。加えて必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

専門看護師コースにおいては、専攻共通科目 2 単位以上(必修 2 単位)、専門共通科目 10 単位以上(看護理論、看護倫理、看護研究方法論、看護教育学特論、看護コンサルテーション論の 10 単位必修)、専攻共通科目 16 単位、実習科目 6 単位、課題研究 4 単位の合計 38 単位以上を修得する。加えて必要な研究指導を受けたうえで、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

6 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専攻共通科目	健康増進科学論	健康増進は、人々が健康を管理し、より健康にすごせる可能性を模索する方法である。本授業では、健康の維持、増進に必要な身体と心の健康についての科学と技術について学習する。特に生活習慣病の成因と病態を理解し、生活習慣が各種疾患に関わっている科学的根拠を学ぶ。さらに、生活習慣病の対策として、食事、運動、ストレスなど生活習慣の改善がどのように予防に関係するのか探求する。また、地域社会における健康増進の取り組みについて学習する。	教授 樋本尚志
	保健医療福祉論	<p>現代社会での保健医療・福祉との連携及び専門家の役割を学習する。健康であるべき日常生活習慣の中で障害を惹起するものの一つに喫煙がある。喫煙関連疾患としては呼吸器疾患が大きく関与するが、その他、循環器疾患の占める割合も大きく、メタボリック症候群の重要なリスクファクターとなる。そのため住民が自ら自立、自覚して取り組めるような指針、プログラム作成が可能となるべき能力を養う。そのためには地域と施設の両面から保健医療・福祉サービスについて学習し、チーム医療としての連携のあり方及び専門家としての役割を探究する。保健医療・福祉制度と政策及びその基礎概念、プランニング、実践方法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(佐藤 功/11 回) 喫煙習慣が惹起する疾患とその歴史的背景や概念を把握する。能動喫煙のみならず受動喫煙でも日常生活における健康に対して障害をもたらす。喫煙疾患の概念やメタボリック症候群との関連性など、問題点の把握及び健康志向との関係並びに地域及び施設における保健医療と福祉サービスについて学習する。</p> <p>(國方弘子/1 回) 保健福祉の基礎概念について学び、チーム医療としての連携のあり方及び専門家としての役割を探究する。</p> <p>(西谷清美/3 回) 保健医療及び福祉制度とその政策について学習し、専門家としてのプランニング及び実践の方法を探究する。</p>	教授 佐藤 功 教授 國方弘子 非常勤講師 西谷清美

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専攻共通科目	チーム医療特論	<p>信念対立を解消し、より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを中心に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学習する。さらに、職種を超えたメンバーでのディスカッションを通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解し、それを理解したうえで（関心相関的観点に立って）、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探究する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（國方弘子/9回）超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理及びチーム医療における構造構成主義の応用方法について学習する。また、事例研究を通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解したうえで、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを探究する。</p> <p>（片山陽子/6回）事例研究を通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解したうえで、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを探究する。</p>	教授 國方弘子 教授 片山陽子
	疫学・統計学	<p>保健医療サービスの質の向上のためには、疾病に関するデータの適正な測定・評価が不可欠である。そこで、保健医療におけるこれらの手法を習得するために、事例を多用しながら疫学及び統計学の理論とその応用方法を修得する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（辻よしみ/11回）疫学の目標である疾病要因の解明と予防を理解する前段として、健康についての概念、多要因疾病観を理解し、集団における健康指標の考え方を修得する。さらに、健康事象を把握するための基礎的調査手法とその解析方法、社会・環境と疾病成立過程の解析方法、疫学調査における倫理等について学ぶ。また、疫学データの分析・解析手段として必要な統計学の基礎と統計学的推論方法について学ぶ。</p> <p>（平尾智広/4回）保健医療における疫学研究の現状解説を通じて、疫学研究の実際を学習するとともに、臨床統計学の基礎と調査設計方法を修得する。</p>	准教授 辻よしみ 非常勤講師 平尾智広
	生命・医療倫理論	<p>バイオサイエンス及び医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的あるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶ。事例を用いたグループワーク、討議、ロールプレイ等の手法も用いることで、「正解」を見つけにくい問いの前で、それでも考え続けることが倫理の本質であることを学ぶ。</p>	教授 塩田敦子

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専攻共通科目	英文献講読	<p>(英文) (概要) Students will read research publications in the general area of health sciences as well as in their specific field of study. The focus will be on recognizing the various essential components of a typical research paper and understanding their logical sequence and content.</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(ジャンジュアナジマ/5回) Students will read selected research publications each week as home assignment. In the class they will analyze and discuss what they have read and answer specific questions about the content.</p> <p>(1) Introduction to and reading of a typical paper in the field of biochemical and genetic aspects of epilepsy (2-4) Reading of recent articles in students' respective fields of research or interest (5) Presentations of selected papers by students and evaluation</p> <p>(古山達雄/5回) Students will read recent articles concerning clinical medicine. In the class they will present what they have read and summarize and discuss the content.</p> <p>(1) Introduction to reading research articles and assignment of recent article(s) to each student (2-5) Presentation of assigned article(s) by each student and discussion about the content</p> <p>(山主智子/5回)</p> <p>(1-3) Reading of papers related to the nutritional sciences (4-5) Students will search and read a paper in their respective research field as home assignment and present and discuss it in the class.</p> <p>(和訳) (概要) 保健医療学の一般的な領域及び学生の専攻分野に関する研究出版物を講読する。特に、典型的な研究論文における基幹的要素を認識し、それらの論理的順序や要旨を理解することに重点を置く。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(ジャンジュアナジマ/5回) 学生は毎週課題として指定の研究文献を講読し、その内容を授業の中で討論、分析する。又内容について具体的な質疑応答をする。</p> <p>(1) 「てんかん病における生化学遺伝学的解析」関連の典型的な論文の紹介と講読 (2-4) 学生の専攻における研究文献の講読 (5) 選ばれた論文の発表とその評価</p> <p>(古山達雄/5回) 過去数年に発表された臨床医学に関係する論文を数本講読し内容について発表する。</p> <p>(1) 英語論文の講読にあたり必要な基本事項を解説した後、各学生に担当する論文の割り当てを行う。 (2-5) 毎週学生が論文の和訳を全員の前で発表し、内容についてみんなで議論する。</p> <p>(山主智子/5回)</p> <p>(1-3) 栄養学関連の論文講読 (4-5) 学生各自の研究に関連した論文を検索し読んでくる。授業において、読んだ論文を紹介し、それについて議論する。</p>	<p>教授 ジャンジュアナジマ 教授 古山達雄 准教授 山主智子</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 共 通 科 目	健康心理看護学特論	<p>健康心理看護学特論では、ライフサイクルにおける対象者の心理・社会的諸問題、危機的状況における対象者とその家族の実際について理解を深め、その支援について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(片山陽子/7回) 超高齢社会において、尊厳ある生を最期まで生きるための“最善の選択とは何か”の問いは、人生の終焉を支える医療の課題である。終末期医療における特徴的諸問題(尊厳死や事前指示等)における意思決定や意思表示の課題とその支援について探究する。学生主体で、プレゼンテーション・討議を行い、課題の分析と医療者の役割を理解する。</p> <p>(辻よしみ/8回) 地域に住む対象者の健康に関する意識や行動を理解し、支援について考える。学生主体で、プレゼンテーション・討議を行い、課題の分析と支援者の役割を理解する。</p>	教授 片山陽子 准教授 辻よしみ
	健康生活支援方法論	<p>健康的な生活のためにはセルフケア能力の獲得・向上が不可欠な要素である。あらゆるライフステージにある人々が、それぞれの生活の場や医療・福祉施設等の支援の場において、セルフケア能力を獲得・向上させ、その人らしい自立した健康的な生活が営めるように、対象の生活や健康問題への反応を的確に把握するために必要な理論と知識を学習する。また、個人、家族、集団に対して、人々が生活の質の向上をめざし、自己の生活のあり方や健康のあり方を自ら選択し、健康生活が営めるような支援方法やシステム構築を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(榮 玲子/13回) 健康と病気の社会、心理及び文化的背景、健康生活を支援するための有用な概念と理論、保健医療福祉制度や健康づくりに関する政策及び関連法規について学び、各ライフステージの生活の特徴・健康問題と支援方法を修得する。</p> <p>(舟越和代/1回) 乳幼児期や学童期の健康に影響する諸要因を理解し、生活の特徴や健康問題をアセスメントする知識を修得する。</p> <p>(山主智子/1回) 健康生活を支援するために必須な概念である、健康増進の基盤となる現代食生活について、健康問題と食品機能・病態栄養学に関連した最新の知見を学習する。</p>	教授 榮 玲子 教授 舟越和代 准教授 山主智子

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	家族発達支援方法論	<p>人間のライフサイクルの視点から、各ライフステージにおける健康問題と発達課題、家族の発達に関連する要因を明らかにする。少子高齢社会における家族の理解に基づいた問題解決と課題達成の方法を実践的に探究する。家族発達支援に必要なセルフケア理論、家族ストレス対処理論、家族発達理論、家族システム理論など諸理論に基づいて、よりよい健康生活をめざした誕生から死にいたる生涯発達と健康教育・学習並びに家族の発達を支援する方法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(松村恵子/11回) 社会変動と家族発達の関係や少子高齢社会における家族の特徴を学び、セルフケア理論、家族ストレス対処理論及び家族システム理論等の家族発達支援に必要な諸理論を修得し、個人の発達と家族を取り巻くコミュニティや社会の発達について探究する。</p> <p>(中村丈洋/1回) 家族発達支援に必要な臨床遺伝学、遺伝カウンセリング、遺伝子情報に関する倫理的指針について学ぶ。</p> <p>(野口純子/3回) 家族の危機について理解し、よりよい家族構成員の健康生活をめざすための家族関係のアセスメントや家族内コミュニケーションのあり方について学ぶ。</p>	教授 松村恵子 教授 中村丈洋 教授 野口純子
	看護理論	<p>卓越した看護実践の基盤となる「看護の諸理論」を理解するための知識を得る。さらに、実践への適応とその限界を検討し、看護実践における理論の意義を探究する。</p> <p>(1) 看護実践・看護理論・看護研究に影響を及ぼしてきた思想や理論の変遷を理解する。</p> <p>(2) 学んだ看護理論の知識を活用して、実践事例への適用を試み、分析的・批判的に検討する。</p> <p>(3) 今日の臨床看護の実践、理論、研究を支える看護の理論的基盤の在り方について議論する。</p>	非常勤講師 當目雅代
	看護倫理	<p>看護実践の中で日常的に直面している倫理的な問題やジレンマ・葛藤場面における現象を深く洞察分析し、それらについて関係者間で倫理的調整を行うために必要な基本的知識を習得する。</p> <p>(1) 看護と倫理の関係性について理解する。</p> <p>(2) 看護倫理の基盤となる倫理原則や倫理的諸概念を理解する。</p> <p>(3) 看護職が直面する倫理的問題の分析と問題解決のために必要な能力を養う。</p> <p>(4) 関係者間で倫理的調整を行う際の具体策を理解し、看護の役割について探求する。</p> <p>(5) 看護のあらゆる場面において倫理的判断を行い、創造的な問題解決に向けた行動がとれる。</p>	教授 國方弘子 准教授 堀美紀子 講師 土岐弘美 非常勤講師 辻上佳輝

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	看護研究方法論	<p>看護の質の向上のために、専門分野における豊かな知識と高度な研究能力を有する実践・教育・研究者の育成をめざす。基本的な看護研究の方法と研究を進めていくプロセス、Evidence-Based practice を理解する。その知識を活用して、国内外の研究論文における論旨の一貫性、研究方法の妥当性と信頼性の視点から評価する能力を修得する。看護研究における方法論の理解に基づいて、それぞれの専門における看護方法に関する研究と開発に取り組む。また、研究者として自律した姿勢と看護研究の実践における倫理観の確立を目指す。さらに、看護の実践と理論と研究が有機的に連動し、社会に還元できる看護研究について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(松村恵子/10回) 看護研究の目的と意義、看護研究における倫理、研究方法の種類と研究計画、量的・質的研究、実験研究、調査研究、関連検証研究、測定用具開発研究等の量的研究の特徴、また、エスノグラフィーについて学び、論文クリティーク演習を通して看護研究方法と看護学的知見について探究する。</p> <p>(吉本知恵/5回) 看護研究における Evidence-Based practice の意義、プロセス、課題と、グランデット・セオリー、現象学的アプローチ、アクションリサーチ等、質的研究の分析方法を学び、看護における質的研究方法の特徴と進め方について探究する。</p>	教授 松村恵子 教授 吉本知恵
	看護教育学特論	<p>看護専門職の継続教育及びキャリア開発に関する諸理論について理解を深め、CNS 役割における「看護スタッフへの教育的関わり」及び「教育環境づくり」に向けた支援方法について探究する。</p> <p>(1) 看護専門職の生涯学習からみた継続教育の現状と課題について理解する。</p> <p>(2) CNS として看護スタッフの実践が評価できるように、看護実践能力の構造と成長発達やしきみを理解する。</p> <p>(3) CNS として看護スタッフに教育提供できるように、成人学習の原理に基づく教育計画の立案と評価の方法について理解する。</p> <p>(4) 看護実践の学びの特徴と学びを促す環境に関する諸理論を理解し、CNS として、看護を教える環境づくりへの支援について探求する。また、看護組織における CNS の役割及び看護管理者との協働連携について探究する。</p>	教授 平木民子

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 共 通 科 目	看護管理学特論	<p>看護管理学の基本となる諸理論及び看護管理過程について理解を深め、看護組織におけるCNSの役割及び看護管理者との協働連携について探究する。</p> <p>(1) 看護管理者及びCNSがマネジメントを実践する上での根拠となる行動科学を理解する。</p> <p>(2) 看護組織の構造と看護管理過程を理解し、看護組織における看護管理者と看護スタッフ及びCNSの役割と仕事について理解する。</p> <p>(3) 看護の質を保証するしくみについて理解し、CNSとして看護ケアの変革を起こすための方法論について探究する。卓越した看護実践の基盤となる「看護の諸理論」を理解するための知識を得る。さらに、実践への適応とその限界を検討し、看護実践における理論の意義を探究する。</p>	非常勤講師 久保田聡美
	看護コンサルテーション論	<p>コンサルテーションの基本的概念を理解し、実際の看護活動を効果的にするために、関係者の主体性を尊重し看護職の専門性を活用しつつ、相談者に適切な援助ができるCNSとしての能力の育成を目指す。また、保健医療福祉など、ケアを提供する看護職及び関係者が職務を遂行する過程で直面する問題や課題を解決するためのコンサルテーションの具体的援助方法について事例を通して学ぶ。</p>	教授 高嶋伸子 講師 土岐弘美

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
研究コース専門領域科目 基盤開発看護学領域科目	看護人材育成学特論	看護人材育成に関する主要テーマ「①看護教育制度(基礎教育と継続教育を含む。)」、②「能力開発及び教育のしくみづくり(プログラム開発、カリキュラム構築、システム構築)」、③「看護実践能力の開発方法と評価方法」などから探求課題を設定し、個人の経験の振り返り、政策トピックスにみる今日の動向の分析、文献レビュー、これらの分析作業を通して、主要テーマに関わる内容の理解を深めると同時に、今後に必要なとされる研究課題について考察する。このプロセスの中で、課題を設定し、系統的に調べて検討し、効果的な発表とディスカッションができる能力を高める。	教授 平木民子
	看護人材育成学演習	看護に対する社会的ニーズの変化を見極め、経験的な視点と理論的な視点を統合しながら、看護人材育成に関する現象を洞察し、どのような問題や課題が起こっているのかを分析し理解する。その問題の解明に向けて、自己の研究課題を明確化しながら研究方法を迫及し、研究計画を作成する。このプロセスの中で、看護人材育成に関する理論と実践をつなぐ概念化能力や批判的思考力や創造力を高め、研究を展開する能力の基盤とする。	教授 平木民子
	看護技術学特論	看護実践におけるケア技術では、普遍的なレベルに達しないまま過去からの経験的なわざに頼っている現状がある。そのため、ケア技術を進化・向上させるために、日々の実践の場で得られるエビデンスを積み重ねていく必要がある。それには、看護実践の場における研究課題を見出し、その課題について看護生理学的な視点で捉えた上で、エビデンスを探究する。そして、国内外の関連文献レビューをもとに、プレゼンテーションとディスカッションをしていく。この過程を通して、課題を自ら探究しようとする能力を高める。	准教授 松村千鶴
	看護技術学演習	看護実践の場における研究課題を明確にする。その研究課題を探究する研究方法について、主観的、生理的側面から具体的に検討する。まず、実験プロトコルは、予備実験を重ねながら研究計画書の完成を目指す。この過程を通して、創造力を発揮し、看護生理学的な理論と批判的思考力を高め、新知見を発見できる研究実践能力の基盤をつくる。	准教授 松村千鶴

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
研究コース専門領域科目 健康 生活 支援 看護 学 領 域 科 目	地域精神看護学特論	メンタルヘルスに健康問題をもつ人とその家族並びに彼らを取り巻く人々が、その人の望む生活をその人らしく生き生きと送れる、すなわち生活の質の向上の支援を中心とした看護を実践するための理論的基盤を学び、対象の健康と自立の支援について深く探求する。具体的には、問題に焦点を当てるにとどまらず、個人と社会に内在する能力・自信・願望・資源などのストレングスに着目することで、対象の健康と自立を支援する方法を学ぶ。また、認知行動理論の学習と演習により、対象が自分自身で自らを助ける（自助）ための援助方法を学ぶ。	教授 國方弘子
	地域精神看護学演習	メンタルヘルスの健康問題に関する看護支援方法の開発をねらいとし、学生の関心領域の文献検討を丁寧に行いながら、問題の明確化と研究課題の絞り込み、研究課題の意義と背景、概念枠組みの設定、研究目的の設定、研究方法の設定を経て、プレゼンテーションと討議をする中で研究計画書を練り上げる。また、学生が用いる研究方法の習得を目指す。	教授 國方弘子
	公衆衛生看護学特論	<p>地域全体を看護の対象ととらえ、そのしくみや地域保健のあり方を考えて地域を看護する活動の展開が求められている。そこで、本講では地域診断に関連するモデルや地域で生活する人々に対する多様な看護実践方法を学び、個人・家族・集団の健康と自立を目指す専門的実践のあり方を追求する。また、地域で生活する個人や家族、地域社会のつながりに着目し、風土や生活様式をも視野に入れた公衆衛生看護の理論的背景を学び、アセスメントや看護方法及びケアマネジメント、ケアシステムについて探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(高嶋伸子/10回) わが国における保健医療福祉の動向や保健師活動の歴史から現代の公衆衛生看護の課題について探求する。また、公衆衛生看護の基盤となる理論や地域診断モデルと関連させた、個人・家族及び集団・グループへの専門的実践の探究と開発について学ぶ。さらに、活力ある地域創成のための地域ケアシステムの構築について探究する。</p> <p>(合田加代子/5回) ヘルスプロモーション、健康・予防・生活・自立など公衆衛生看護の基盤となる理論と概念、公衆衛生看護の実践基盤としての地域診断と関連モデルについて学び、コミュニティ・アズ・パートナーモデルについてのアセスメント・分析、計画策定・実施・評価などの方法を探究する。</p>	教授 高嶋伸子 准教授 合田加代子

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
研究 コース 専門 領域 科目	公衆衛生看護学演習	地域診断や個別事例のアセスメントを踏まえ、地域住民の健康と自立を目指すケアマネジメントや地域ケアシステムの構築及び保健計画の立案など地域における公衆衛生看護の実践能力や方策について探究する。また、コミュニティアセスメントや個別事例からみた地域の健康課題の発表と討議、当該健康課題から立案した保健計画や公衆衛生看護実践についての討議並びに公衆衛生看護関連文献レビューと討議、研究計画書の立案検討及び発表・討議を通して研究課題を見出し、修士論文に反映させる。	教授 高嶋伸子 准教授 辻よしみ
	療養支援看護学特論	療養上の看護支援を必要とする健康上の問題を持つ人々のQOLを高めることを志向した健康回復、健康維持への援助について、今後取り組む必要のある研究テーマを探究する。そのために、看護実践を支持する理論的基盤、概念などについて学びながら、文献検討や保健医療福祉政策などの社会動向の分析を通して、療養支援における今日的課題を考察する。特に、がん療養支援では、がん患者と家族の持つ全人的苦痛、倫理的課題を多角的に考察し、がんサバイバーシップの考え方をもとに、QOLの向上につながる実現可能な支援方法を探究する。	教授 内海知子
	療養支援看護学演習	療養支援看護学特論での学びをもとに、学生の関心領域を中心に文献レビューを行い、プレゼンテーション及びディスカッションにより研究課題と研究意義を明確にする。また、フィールド演習を行いながら、研究方法論の学習と習得、研究における倫理的課題について学ぶ。これらの過程を通して、研究計画書を作成し、学生によるピアレビューを行いつつ洗練させる。	教授 内海知子
	老年看護学特論	老年期にあり、健康問題(認知症など)をもつ対象者とその家族を全人的に理解し、Quality of lifeを高める看護について探求する。そのために、老年期の心理社会的課題、高齢者総合機能評価、認知症高齢者ケアモデルなど、Quality of lifeを高める看護実践を支持する理論的基盤、概念について学ぶ。さらに、老年看護学の動向や今日的課題を分析・考察する。	教授 吉本知恵
	老年看護学演習	学生の関心領域に関する文献レビューを行い研究の動向を把握すると共に、プレゼンテーション及びディスカッションを行い研究課題と研究の意義を明確化する。また、研究課題を明確化するための研究方法や倫理的配慮について検討し、研究計画書を作成する。	教授 吉本知恵
	在宅看護学特論	在宅療養者及び家族のQOL向上に貢献できる看護実践のあり方を探究すると共に、在宅ケアに関連する今日的課題及び課題解決の方向性について、諸理論や社会システム、政策との関わりにおいて考究する。講義は各学生の看護実践経験と学際的アプローチを統合し、学生の主体的学習を基本とする。	教授 片山陽子
	在宅看護学演習	在宅で療養する療養者、特に終末期及び医療依存度の高い療養者と家族に対する質の高い在宅看護実践を行うための理論を理解し専門的看護の実践方法を探究する。また、療養者と家族のニーズに応じて在宅、医療機関、施設など多様な場をシームレスかつタイムリーに移行できるための生活と医療を統合するアセスメントとマネジメントに関する理論と方法論を考究する。	教授 片山陽子

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
研究コース専門領域科目 次世代育成看護学領域科目	育成支援看護学特論	子どもを生み育てる発達段階における健康課題について、育成支援の観点から性と生殖に関する学識を深め、健康と自立をめざして有機的に展開できる次世代育成支援方法を探究する。特に、(1)性と生殖に関する今日の問題と課題、(2)母性・父性や育児性などの主要概念、(3)次世代育成と支援方法に関する諸理論、(4)子育てにおける相互浸透行為と乳幼児虐待など問題への対応、(5)学童期・思春期の健康について焦点をあて育成支援看護学に関する知識の体系化を目指し、専門性・独創性を重視した看護実践方法について探究する。	教授 松村恵子
	育成支援看護学演習	少子社会の次世代育成方法について、看護実践方法や支援システムの構築に取り組む力を培うことをめざした文献クリティークと事例検討を行い、自らの研究課題と修士論文作成に反映する。特に、子どもと親、家族が生涯を通して健康と自立の生活を営む支援方法を探究する。(1)親と子と家族の発達における問題を的確に診断して解決する方法、(2)子どもを生み育てる発達課題を達成する方法、(3)遺伝相談や不妊治療などの生殖補助医療に関する今日的な課題について焦点をあて、より健康的な生活を目指したウェルネス志向型の看護方法について探究する。	教授 松村恵子
	子ども発達支援看護学特論	子どもとその家族を様々な理論に基づいた発達の視点から捉え、子どもとその家族が健康に生活できる力をつけるための支援方法について探求する。さらに、複雑な健康問題がある子どもとその家族がおかれている現状や問題点についても概観し、社会的な資源の実際と活用方法、調整方法について学習し、子どもの健康レベルや状況に応じた、子どもの発達を支援する効果的なケアについて検討する。	教授 舟越和代
	子ども発達支援看護学演習	子ども発達支援看護学特論での学びを基に、より深く探求したい関心領域の国内外の文献レビューと、実践現場のリサーチを行い、新たな研究課題を見出す。その過程で、文献のクリティークとディスカッション、プレゼンテーションの能力を高める。	教授 舟越和代
	女性健康看護学特論	生涯を通じた女性の健康支援に向けて、ライフサイクル各期における女性の健康問題やマタニティサイクル各期における母子及び家族の健康問題に対する看護援助のための諸概念・理論・方法論について学習する。特に、思春期から成熟期、更年期に至る女性の心理社会的特性と健康問題、胎児及び新生児・乳児に対する母親の愛着、育児ストレス、母子と家族への育児支援やソーシャルサポートに関する理論と方法論を学習する。	教授 榮 玲子

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
研究コース専門領域科目 次世代育成看護学領域科目	女性健康看護学演習	女性健康看護学特論で学習した諸概念・理論・方法論を基盤として、演習により女性、母子及び家族を対象とした看護における課題・問題を考察し、支援方法や管理方法を探究することで看護実践に必要な能力を養う。特に、ライフサイクル各期における女性の健康問題と保健行動、マタニティサイクル各期における母子及びパートナーや家族のもつニーズや健康問題に対して、心理・社会的特性を踏まえ、新しい看護・助産の支援方法や管理方法を科学的に探究する。	教授 榮 玲子
	助産実践学特論	母子及び家族を対象とした専門的看護領域である助産の中核となっている助産診断と助産技術について、理論と実践の関連性や今日的課題について研究的視点をもって探究する。(1)看護診断と助産診断の関連性、助産診断の特異性、支持理論と診断過程における課題探究、(2)看護ケア理論と助産技術との関連性と支持理論からみた助産技術の実践過程における課題探究、(3)母子及び家族を対象とした助産技術の実践過程における現状と問題及び助産ケアの効果分析の方法の習得と課題探究。	教授 野口純子 准教授 竹内美由紀
	助産実践学演習	助産実践学特論の学習内容を基盤とし、助産の実践及び研究に活用できるよう助産診断や助産技術の今日的課題検討を演習方式による学習でさらに深める。(1)マタニティサイクル各期の助産診断の構成要素の内容分析と関連諸理論との照合からみた課題と課題探究の方法、(2)ライフサイクル各期の助産診断の構成要素の内容分析と関連諸理論との照合からみた課題と課題探求の方法、(3)看護ケア理論と助産技術ケア理論の照合と母、子、家族における効果分析の検討。	教授 野口純子 准教授 竹内美由紀

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門看護師コース科目（精神看護） 専攻分野共通科目	精神保健医療福祉システム論	精神保健医療福祉に関する制度や体制についての変遷や背景を学び、精神保健福祉の動向を踏まえた精神看護CNSの役割や機能について理解を深める。また、対象の視点から、現実にある資源や体制の問題点を抽出し、その上で、精神看護CNSが対象のQOLの向上を目的に、どのように精神保健医療福祉のそれぞれの資源や支援体制を包括的に繋ぐか、その方法を学習する。さらに、現実にある資源や体制の変革を目指したディスカッションを行う。	教授 國方弘子 講師 土岐弘美
	精神看護アセスメント論Ⅰ	精神看護CNSの卓越した実践能力の基盤であるアセスメント能力の育成を行うために、主な精神疾患の症状と精神医学的診断学並びに治療学を学ぶ。さらに、薬理効果のアセスメント能力の育成を行うために、精神科薬物療法に用いる治療薬の薬理作用機序（吸収、分布、代謝、排泄）に関する知識を学修し、安全確実な薬剤投与・管理に対する知識を深める。	教授 國方弘子 非常勤講師 三谷理恵 二宮昌樹
	精神看護アセスメント論Ⅱ	精神看護CNSとして精神の健康生活の評価ができるようになるために、自我機能、社会機能、家族機能から対象をアセスメントできる能力を高める。さらに、ストレングスの視点からアセスメント方法を学ぶ。	教授 國方弘子 講師 土岐弘美
	精神看護セラピーⅠ	精神看護CNSに求められる臨床能力の一つである認知行動療法の理論を学び、対象が今よりも上手にセルフヘルプできることを目指して、認知行動療法的看護介入ができる能力を身につける。	教授 國方弘子 非常勤講師 田中恒彦
	精神看護セラピーⅡ	リラクゼーションに関連する理論の学習を深め自律神経のバランス回復の視座に立ち、精神疾患患者がストレスマネジメントできるために、また、身体疾患のある患者やターミナル期の患者が緊張を取り除きストレスを緩和できるように、効果的なリラクゼーション看護援助技術を身につける。	教授 國方弘子 講師 土岐弘美 非常勤講師 竹森元彦
	リエゾン精神看護論	リエゾン精神看護の役割と機能を学び、精神看護の知識や技術を他領域の看護に適用すること並びに看護職間の連携を図ることによって対象に良質で効率的なケアの提供ができる能力を高める。また、看護師のメンタルヘルスの向上を支援する能力を養う。	非常勤講師 馬場華奈己 福田亜紀
	精神看護援助論Ⅰ	精神看護領域において実践されている直接ケアを事例検討で深め、精神看護CNSとして、対象者・家族・集団に対する卓越した看護援助ができる能力を養う。	教授 國方弘子
	精神看護援助論Ⅱ	卓越した看護実践能力を養うために、精神看護CNSの実際の活動から教育、相談、調整、倫理調整、研究について、さらに組織変革の実際を学ぶ。	教授 平木民子 准教授 竹内美由紀 講師 土岐弘美 非常勤講師 江波戸和子

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門看護師 コース科目 (精神看護)	実習科目 精神看護CNS役割実習	個人、家族及び集団に対する卓越した看護実践能力を有するために、第一段階として実践、相談、調整、教育、倫理的調整を実践している精神看護CNSの活動を主体的に観察・分析し、洞察する。第二段階として、精神看護CNSから教育・監督を受けながら実際に精神看護CNSの機能を実践して学び看護実践現場の変革者としての精神看護CNSの役割について総合的に検討し自己の活動ビジョンを明確にする。また、リエゾン精神看護CNSの活動を主体的に観察・分析し、洞察し、患者と患者をケアする看護師をケアすることによって、より良い医療を促進するためにリエゾン精神看護CNSの役割について総合的に検討し自己の活動ビジョンを明確にする。	教授 國方弘子 講師 土岐弘美
	精神看護直接ケア実習	精神看護CNS役割実習を発展させ、精神看護アセスメント論及び精神看護セラピー、精神看護援助論などの知識と技術を統合し、精神看護CNS又はリエゾン精神看護CNSに必要な高度な直接ケアを展開する。	教授 國方弘子 講師 土岐弘美

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	看護学特別研究	<p>基盤開発看護学領域科目（看護人材育成学）、健康生活支援看護学領域科目（地域精神看護学、公衆衛生看護学、成人老年看護学）、次世代育成看護学領域科目（育成支援看護学、女性健康看護学、助産実践学）の中から希望する研究科目を選択し、当該科目における研究課題の解決方法等について、担当教員の指導のもと修士論文の作成に向けて研究を行う。</p>	
	基盤開発 看護学領域	<p>1年次の演習で設定した自己の研究課題に沿って研究計画を立て、さらに研究遂行に関わる諸条件を整えて研究計画書の完成度を高める。さらに、研究計画書に基づいた具体的な研究方法の実行に関わるデータ収集技術の精練を図りつつ、研究を進める中で生じる疑問や課題の解決のためのディスカッションを重ねながら、研究展開を推進する。このプロセスの中で、フィールド調査から得られたデータを分析し、研究課題についての考察を深め、論理一貫性のある修士論文を完成する。</p>	教授 平木民子
		<p>研究課題と関連した、看護実践における特定の問題に注目し、生理学的な視点で追究する。その問題を解決しようとする試みはEvidence-Based Nursing (EBN) を推進するために不可欠であり、国内外の関連文献の入念なレビュー、ディスカッションを通して研究課題を明確にしていく。さらに、対象理解のための形態・機能論、量的研究、特に実験研究の方法論を系統的に習得し、収集したデータとその解析に必要な研究能力を養う。研究課題について、看護生理学的な視点で考察を深め、簡潔明瞭で論理が一貫した修士論文を完成させる。</p>	准教授 松村千鶴
	健康生活支援 看護学領域	<p>メンタルヘルスに健康問題をもつ人とその家族並びに彼らを取り巻く人々に関連した学生個々の研究テーマに関して、研究のプロセスに沿って研究を行い修士論文の作成を支援する。主たる担当分野は、(1)さまざまな精神疾患患者又はその近親者や保健医療福祉サービスで働くスタッフのQuality of lifeに関する研究、(2)認知行動療法を用いた看護介入に関する研究、(3)メンタルヘルスに健康問題を持つ人のリカバリーに関する研究、等である。</p>	教授 國方弘子
		<p>公衆衛生看護学特論及び演習を通して見出した実践的研究課題に取り組み、修士論文が完成に向かうよう指導するとともに、公衆衛生看護学における実践知を蓄積できる研究能力を養い、地域に還元できるよう支援する。主として担当できる分野は、(1)行政に働く保健師の実践能力に関する研究、(2)地域保健活動への住民の主体的参画に関する研究、(3)公衆衛生看護学の教育方法に関する研究である。</p>	教授 高嶋伸子
		<p>加齢や疾患による健康問題を抱える高齢者及びその家族、それらの人々に関わる看護職に関する研究課題に関して、研究のプロセスにそって研究を行い、修士論文を作成することを支援する。主として担当できる分野は、(1)高齢者の病院からの移行を支援する看護に関する研究、(2)認知症など健康障害を抱えた高齢者及び家族の看護に関する研究、(3)老年看護学の教育方法に関する研究である。</p>	教授 吉本知恵
	<p>学生が選択した療養生活支援看護学における課題について、1年次の療養支援看護学特論及び演習をふまえて修士論文を作成する。その過程で、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集と分析、論文作成までの一連の研究プロセスにおいて、研究の基本的な遂行能力が修得できるよう支援する。主として担当できる研究分野は、(1)がんサバイバーとサバイバーシップに関する研究、(2)がんなどの療養支援に関する研究である。</p>	教授 内海知子	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	看護学特別研究		
	健康生活支援 看護学領域	<p>在宅看護学領域における知見や自らの問題意識を基に、研究課題の焦点化、文献レビューと研究方法適用に関する検討を重ねながら、各学生が看護実践の質の向上を目指した研究的アプローチを修得することを支援する。研究プロセスの実践においては、討論やプレゼンテーションを重ねて、研究課題を論考する能力の育成ができる形式で進める。主として担当できる分野は、(1) 在宅高齢者のエンド・オブ・ライフケアに関する研究、(2) 在宅ケアに携わる看護師の実践能力育成や教育に関する研究、(3) 在宅高齢者やその家族への支援に関する研究である。</p> <p>学生自らの公衆衛生看護実践活動を通して見出した問題意識を研究課題に転換し、その課題に対して公衆衛生看護の視点から研究的に取り組む過程を支援し、研究能力を養い、修士論文完成に向けて指導する。また、研究成果を社会に還元できるよう支援する。主として担当できる研究分野は、(1) 保健師の個別支援能力獲得に関する研究、(2) 公衆衛生看護実践におけるコミュニティづくりに関する研究、(3) 公衆衛生看護の教育方法に関する研究である。</p>	<p>教授 片山陽子</p> <p>准教授 合田加代子</p>
	次世代育成 看護学領域	<p>次世代育成看護学領域における文献検討の充実を図り、社会における看護の命題と対峙し、看護の実践から教育・研究・管理の融合をめざして取り組む研究と修士論文の作成へと支援する。主として担当できる研究のタイプは、記述的研究と相関関係的研究であり、専門分野は、(1) 母性意識の構造と発達に関する実証的研究、(2) 看護職者の生涯学習とアイデンティティに関する研究、(3) 次世代育成支援システムの開発<文化的背景と子育ての関係・乳幼児と家族の健康支援方法>に関する研究、(4) 助産師のキャリア発達・専門的な生涯学習等の動機づけ要因に関する研究、(5) 母性看護学・助産学の教育方法に関する研究である。</p> <p>ライフサイクル各期の女性に対する健康支援やマタニティサイクル各期の母子及び家族の課題・健康問題への看護援助など、看護学及び助産学の視点から、その課題・問題を明確にし、修士論文完成に向けて研究を支援する。主として担当できる分野は、(1) 母親役割の獲得過程に関する研究、(2) 母親の子どもに対する愛着及び母親意識と育児状況に関する研究、(3) 乳幼児期の子どもを持つ母親の育児ストレスと育児支援等に関する研究、(4) 女性への健康支援に関する研究、(5) 母性看護学・助産学の教育方法に関する研究である。</p> <p>小児看護学の文献検討をもとに、社会に還元できる研究ができるように支援する。主として担当できる研究分野は、(1) 子どもの健康行動に関する研究、(2) 病児とその家族、障害児・者とその家族の看護に関する研究、(3) 小児看護学教育方法に関する研究などである。</p> <p>助産学における文献検討の充実を図り、助産実践学特論及び演習をふまえて、助産学の視点から研究課題を明確にし、研究計画・研究実践について個別に討論するプロセスを通じて、修士論文完成に向けて研究を支援する。主として担当できる分野は、(1) マタニティサイクルにおける助産診断と健康生活支援に関する研究、(2) 母親の育児ストレスと子育て支援システムの構築に関する研究、(3) 周産期における助産師の役割と助産ケアに関すること、(4) 助産学の教育方法に関する研究である。</p>	<p>教授 松村恵子</p> <p>教授 榮 玲子</p> <p>教授 舟越和代</p> <p>教授 野口純子</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	課題研究	<p>精神保健医療福祉システム論、精神看護アセスメント論及び精神看護セラピー、精神看護援助論で学んだ内容を踏まえて、精神看護の実践の中から研究テーマを取り上げ、研究プロセスをとおして研究を行う能力を養う。具体的には、研究テーマを自主的に選択し、教員の指導を受けながら文献レビューを行い、概念の検討と整理を行い、研究目的に適した研究方法を選択し実施する。得られた結果の分析と考察を行い、一連のプロセスを論文としてまとめる。</p>	教授 國方弘子

臨床検査学専攻

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の「健康と自立」の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人として、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、県民の健康増進と生活の質の向上、次世代育成支援に寄与する能力を修得することを目的とする。

II 臨床検査学専攻のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 生命を尊重し、いたわりの心をもつ人
- (2) 臨床検査に関する基本的な知識・技能・態度を有している人
- (3) 臨床検査学の領域におけるさまざまな課題についてリサーチマインドを持って探究し、解決に努力する人
- (4) 新たな臨床検査技術の開発に向けた研究を行いたい人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育目的、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査技師の役割と機能が拡大・多様化するなかで、高度先進医療への対応と新しい検査技術の開発、感染症や生活習慣病などの疾病予防と健康増進に貢献できる高度専門職業人としての臨床検査技師を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

専攻共通科目 8 単位以上(必修 6 単位、選択 2 単位以上)、専門共通科目 4 単位以上、専門領域科目 8 単位以上(選択した特別研究が属する領域科目から特論 2 単位及び演習 2 単位、さらに他の領域科目も含め 4 単位以上)、特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得とする。

- (1) 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学について学修する。
- (2) 病因解析検査学領域では、病原微生物、生態防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学について学修する。
- (3) 環境・食品などの健康科学において、科学的な検証システムの構築などを通して人々の健康志向への対応や健康増進に貢献できる方法について学修する。
- (4) 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門における管理指導的役割について学修する。
- (5) 特別研究は、研究課題となる専門領域科目の特論と演習における学修に連動した研究を遂行し、専門性を深く探究した修士論文を完成とする。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で修士論文を作成し、本研究科が行う修士論文についての研究の成果の審査及び最終試験

に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の修士学位を授与する。

- (1) 国際専門誌の読解力を備え、全国学会でも 研究を発表する能力があること。
- (2) 研究テーマに自主性や独創性があり、研究仮説の立案から実証までのすべての過程の説明能力を有すること。

Ⅲ 臨床検査学専攻の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	領域名
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	病態機能検査学領域
		病因解析検査学領域

2 学位の名称

修士(臨床検査学)：臨床検査学専攻の各領域の課程修了者

3 教育目的・教育課程の特色

(1) 臨床検査学専攻の教育目的

次の能力を修得することを目的とする。

- ① 臨床検査学の特定の領域や遺伝子診断などの先進医療において、その専門性をこれまで以上に追究し、より高度な学術理論と実践能力をもってチーム医療の場で指導的役割を担う能力
- ② 輸入感染症や新興・再興感染症への対応、生活習慣病の予防など、国際協力活動や地域の要請に応じた保健医療活動を展開する能力
- ③ 環境・食品などの健康科学における科学的な検証システムの開発など、人々の健康増進に貢献する能力
- ④ 優れた臨床検査技師の養成や社会人教育、また新しい検査技術や機器の開発など、臨床検査学の発展に貢献する教育・研究能力

(2) 臨床検査学専攻の教育課程の特色

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域とした。

- ① 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学を探究する。また、種々の生体機能と病態との関わりについても学問的関心を深め、新しい検査技術の開発や学問の発展に貢献するとともに、高度先進医療やチーム医療の場で指導的役割を果たすことができる能力を学修する。
- ② 病因解析検査学領域では、病原微生物、生態防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学を探究する。また、新たな検査診断法を開発できるような研究能力と高い技術力を養い、この分野における学問の発展と高度先進医療に貢献できる高度専門職業人を養成する。さらに、これらの技術力を生かし、チーム医療、感染症対策、アレルギー対策、生活習慣病の予防など、地域の保健医療活動で指導的役割を担うことができる能力を学修する。
- ③ 環境・食品などの健康科学において、科学的な検証システムの構築などを通して人々の健康志向への対応や健康増進に貢献できる能力を学修するため、専攻共通科目として「健康増進科学論」を必修としたうえで、専門共通科目に「環境衛

生論」と「食理学」を配置した。

- ④ 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門で管理指導的役割を果たすことができる能力を学修する目的で、専門共通科目に「検査総合管理学」と「医療情報管理学」を配置した。

4 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考	
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
専攻共通科目	健康増進科学論	1 前	2		○				
	保健医療福祉論	1 前	2		○			オムニバス	
	チーム医療特論	1 後	2		○			オムニバス	
	疫学・統計学	1 前		2	○			オムニバス	
	生命・医療倫理論	1 後		2	○				
	英文献講読	1 前		2	○			オムニバス	
	小計(6科目)	-	6	6		-		-	
専門共通科目	検査総合管理学	1 後		2	○			オムニバス	
	医療情報管理学	1 後		2	○				
	環境衛生論	1 前		2	○			オムニバス	
	食理学	1 前		1	○			オムニバス	
	検査研究方法論	1 後		1	○			オムニバス	
	小計(5科目)	-	0	8		-		-	
専門領域科目	病態機能検査学領域	生体機能検査学特論	1 前		2	○			
		生体機能検査学演習	2 前		2		○		
		病態解析検査学特論	1 前		2	○			
		病態解析検査学演習	2 前		2		○		
		病理病態検査学特論	1 前		2	○			
		病理病態検査学演習	2 前		2		○		
		血液病態検査学特論	1 後		2	○			
		血液病態検査学演習	2 前		2		○		
	小計(8科目)	-	0	16		-		-	
	病因解析検査学領域	病原因子検査学特論	1 後		2	○			
		病原因子検査学演習	2 前		2		○		
		生体防御検査学特論	1 後		2	○			
		生体防御検査学演習	2 前		2		○		
		生体化学検査学特論	1 後		2	○			
		生体化学検査学演習	2 前		2		○		
		遺伝子検査学特論	1 後		2	○			
遺伝子検査学演習		2 前		2		○			
小計(8科目)	-	0	16		-		-		
特別研究	臨床検査学特別研究	2 通	10			○			
	小計(1科目)	-	10	0		-		-	
合計(28科目)			16	46		-		-	

5 修了要件等

専攻共通科目 8 単位以上（必修 6 単位、選択 2 単位以上）、専門共通科目 4 単位以上、専門領域科目 8 単位以上（選択した特別研究の属する領域科目から特論 2 単位及び演習 2 単位、さらに他の領域科目も含め 4 単位以上）及び特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得する。加えて必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

6 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専攻共通科目	健康増進科学論	健康増進は、人々が健康を管理し、より健康にすごせる可能性を模索する方法である。本授業では、健康の維持、増進に必要な身体と心の健康についての科学と技術について学習する。特に生活習慣病の成因と病態を理解し、生活習慣が各種疾患に関わっている科学的根拠を学ぶ。さらに、生活習慣病の対策として、食事、運動、ストレスなど生活習慣の改善がどのように予防に関係するのか探求する。また、地域社会における健康増進の取り組みについて学習する。	教授 樋本尚志
	保健医療福祉論	<p>現代社会での保健医療・福祉との連携及び専門家の役割を学習する。健康であるべき日常生活習慣の中で障害を惹起するものの一つに喫煙がある。喫煙関連疾患としては呼吸器疾患が大きく関与するが、その他、循環器疾患の占める割合も大きく、メタボリック症候群の重要なリスクファクターとなる。そのため住民が自ら自立、自覚して取組めるような指針、プログラム作成が可能となるべき能力を養う。そのためには地域と施設の両面から保健医療・福祉サービスについて学習し、チーム医療としての連携のあり方及び専門家としての役割を探究する。保健医療・福祉制度と政策及びその基礎概念、プランニング、実践方法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(佐藤 功/11 回) 喫煙習慣が惹起する疾患とその歴史的背景や概念を把握する。能動喫煙のみならず受動喫煙でも日常生活における健康に対して障害をもたらす。喫煙疾患の概念やメタボリック症候群との関連性など、問題点の把握及び健康志向との関係並びに地域及び施設における保健医療と福祉サービスについて学習する。</p> <p>(國方弘子/1 回) 保健福祉の基礎概念について学び、チーム医療としての連携のあり方及び専門家としての役割を探究する。</p> <p>(西谷清美/3 回) 保健医療及び福祉制度とその政策について学習し、専門家としてのプランニング及び実践の方法を探究する。</p>	教授 佐藤 功 教授 國方弘子 非常勤講師 西谷清美

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専攻共通科目	チーム医療特論	<p>信念対立を解消し、より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを中心に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学習する。さらに、職種を超えたメンバーでのディスカッションを通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解し、それを理解したうえで（関心相関的観点に立って）、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探究する。</p> <p>（オムニバス方式/全 15 回）</p> <p>（國方弘子/9 回）超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理及びチーム医療における構造構成主義の応用方法について学習する。また、事例研究を通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解したうえで、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを探究する。</p> <p>（片山陽子/6 回）事例研究を通して、専門領域に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解したうえで、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを探究する。</p>	教授 國方弘子 教授 片山陽子
	疫学・統計学	<p>保健医療サービスの質の向上のためには、疾病に関するデータの適正な測定・評価が不可欠である。そこで、保健医療におけるこれらの手法を習得するために、事例を多用しながら疫学及び統計学の理論とその応用方法を修得する。</p> <p>（オムニバス方式/全 15 回）</p> <p>（辻よしみ/11 回）疫学の目標である疾病要因の解明と予防を理解する前段として、健康についての概念、多要因疾病観を理解し、集団における健康指標の考え方を修得する。さらに、健康事象を把握するための基礎的調査手法とその解析方法、社会・環境と疾病成立過程の分析方法、疫学調査における倫理等について学ぶ。また、疫学データの分析・解析手段として必要な統計学の基礎と統計学的推論方法について学ぶ。</p> <p>（平尾智広/4 回）保健医療における疫学研究の現状解説を通じて、疫学研究の実際を学習するとともに、臨床統計学の基礎と調査設計方法を修得する。</p>	准教授 辻よしみ 非常勤講師 平尾智広
	生命・医療倫理論	<p>バイオサイエンス及び医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的あるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶ。事例を用いたグループワーク、討議、ロールプレイ等の手法も用いることで、「正解」を見つけにくい問いの前で、それでも考え続けることが倫理の本質であることを学ぶ。</p>	教授 塩田敦子

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専攻 共通 科目	英文献講読	<p>(英文) (概要) Students will read research publications in the general area of health sciences as well as in their specific field of study. The focus will be on recognizing the various essential components of a typical research paper and understanding their logical sequence and content. (オムニバス方式/全 15 回) (ジャンジュアナジマ/5 回) Students will read selected research publications each week as home assignment. In the class they will analyze and discuss what they have read and answer specific questions about the content. (1) Introduction to and reading of a typical paper in the field of biochemical and genetic aspects of epilepsy (2-4) Reading of recent articles in students' respective fields of research or interest (5) Presentations of selected papers by students and evaluation (古山達雄/5 回) Students will read recent articles concerning clinical medicine. In the class they will present what they have read and summarize and discuss the content. (1) Introduction to reading research articles and assignment of recent article(s) to each student (2-5) Presentation of assigned article(s) by each student and discussion about the content (山主智子/5 回) (1-3) Reading of papers related to the nutritional sciences (4-5) Students will search and read a paper in their respective research field as home assignment and present and discuss it in the class.</p> <p>(和訳) (概要) 保健医療学の一般的な領域及び学生の専攻分野に関する研究出版物を講読する。特に、典型的な研究論文における基幹的要素を認識し、それらの論理的順序や要旨を理解することに重点を置く。 (オムニバス方式/全 15 回) (ジャンジュアナジマ/5 回) 学生は毎週課題として指定の研究文献を講読し、その内容を授業の中で討論、分析する。又内容について具体的な質疑応答をする。 (1) 「てんかん病における生化学遺伝学的解析」関連の典型的な論文の紹介と講読 (2-4) 学生の専攻における研究文献の講読 (5) 選ばれた論文の発表とその評価 (古山達雄/5 回) 過去数年に発表された臨床医学に関係する論文を数本講読し内容について発表する。 (1) 英語論文の講読にあたり必要な基本事項を解説した後、各学生に担当する論文の割り当てを行う。 (2-5) 毎週学生が論文の和訳を全員の前で発表し、内容についてみんなで議論する。 (山主智子/5 回) (1-3) 栄養学関連の論文講読 (4-5) 学生各自の研究に関連した論文を検索し読んでくる。授業において、読んだ論文を紹介し、それについて議論する。</p>	<p>教授 ジャンジュアナジマ 教授 古山達雄 准教授 山主智子</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	検査総合管理学	<p>科学的根拠に基づく検査管理能力を養うため、検査室運営法、検体の採取からデータ報告に至るまでのリスクの発生とそれを防止するための考え方や対処法について学習する。また、医療体制の変化により、より質の高い医療が求められるようになり、国民の医療への期待は大きい。そのため、医療経済、医療保険制度、地域医療、医療サービスにおける患者の満足度、マーケティング、経営戦略などを通して医療経営の課題と問題解決法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(中村丈洋/7回) 高齢化社会や疾病構造の変化に対応した21世紀の病院のありかたや、チーム医療としての臨床検査技師の新しい役割を、医療保険制度と診療報酬を学びながら、その経営戦略を探る。</p> <p>(多田達史/8回) 検査管理学の概論、検査室と病院組織との関連、検査室の組織と運営方法、精度管理の概論、分析方法の評価、分析状態やデータ出力管理、個人・集団データからのアプローチ方法、検査データの見方と説明、救急時における緊急検査への対応などについて学ぶ。</p>	教授 中村丈洋 准教授 多田達史
	医療情報管理学	<p>医療情報は疾患の予防、診断、治療に不可欠であり、その管理は重要である。近年、情報技術の進展とともに診療録等の扱いは大きく変革している。チーム医療の中で他部門と協調しながら電子カルテ等の医療情報の管理や活用、また情報開示にとまなう倫理問題に対応可能な人材育成を目指す。さらに、さまざまな医療分野において Evidence-based Medicine (EBM) の概念の重要性が強調される今日、医療情報解析の立場から科学的根拠を提供し、活用できる能力を養う。</p>	准教授 立石謹也
	環境衛生論	<p>生物は環境の中に生存しており、その環境は生物とさまざまな形で相互的に作用しあっている。特に、ヒトは環境から多種多様な物理的、生物的及び化学的危険因子に暴露する可能性が高くなっている。そこで、環境中のそのような危険因子とヒトの健康との相互関係や、環境中における病原因子について学習する。また、予防医学や自然環境問題における環境衛生の意義とその役割について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(奥田 潤/2回) 現代の環境と感染症の関係について理解するため、新興・再興感染症、滅菌・消毒、ワクチン、院内感染症、抗菌薬耐性菌、薬剤の適正使用などについて学習する。</p> <p>(眞鍋紀子/4回) 環境汚染と生態系の変化、環境汚染による健康への影響について教授し、生活環境保全の方法論について学習する。</p> <p>(須那 滋/9回) 地球環境問題や一般生活環境及び労働環境中に存在する各種有害環境因子について、健康影響、リスクアセスメント・リスクマネジメント、規制方式等を中心に学習する。</p>	教授 奥田 潤 教授 眞鍋紀子 非常勤講師 須那 滋

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	食理学	<p>医療職の専門家として食の機能を理解し、現状で起きている食の問題点の整理と食の安全性に影響を与える因子（リスク）について分析し、消費者や患者に対して安全な食品が摂取できる指導者としての能力を養う。さらに、健康食品や食全般の安全性についての分析検査技術を習得し、得られた科学的根拠データをもとに評価できるリスクコミュニケーターを養成する。</p> <p>（オムニバス方式/全7回）</p> <p>（立石謹也/6回）食の安全・安心に関する社会的状況を把握し、食のリスク分析、商品表示と消費者行動や食に関する法規について学び、食の安全性及び安心を評価できる技術と分析法を身に付け、リスクコミュニケーターとしての知識や技術を修得する。</p> <p>（山主智子/1回）病因と健康増進の観点から、食の意義について分析し、栄養素としての食の重要性を学習する。</p>	准教授 立石謹也 准教授 山主智子
	検査研究方法論	<p>保健・医療分野の研究方法について基本的な構成を学び、自らが研究課題に対して解決できる能力を養う。具体的には、最初に研究方法の概要（研究計画の立て方、サンプルの収集法、研究の実施法、研究結果の分析法、研究成果のまとめ、資料の記録）を学び、トピックス・研究課題の見つけ方、文献検索法、仮説の立て方、研究デザイン法、データの収集とデータ解析法について修得し、得られた成果を論文として作成する方法や学会発表等で表現できる能力を養う。</p> <p>（オムニバス方式/全7回）</p> <p>（加太英明/4回）研究の具体例を紹介し、課題の見つけ方、文献検索、資料の整理、研究目的や仮説の考え方、研究方法の選択の仕方や研究デザインを学ぶとともに、倫理規程や人権問題についての知識を修得する。</p> <p>（多田達史/3回）研究者として必要なデータ収集と測定及びデータの統計解析の手法、論文の作成方法、学会での発表やスライド作成の方法、論文の投稿や投稿規程、課題の発表方法について学ぶ。</p>	教授 加太英明 准教授 多田達史

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病態機能検査学領域科目		
	生体機能検査学特論	健康寿命の延伸が社会的にも望まれており、性差医療の観点から更年期以降の女性の well aging が注目されている。女性は閉経後エストロゲンの低下にともない脂質異常症、高血圧、肥満及び糖尿病などの生活習慣病患者が急激に増加する。これら循環生理領域の疾患の病態生理を十分理解し、対策を講じることが求められており、そのために有効な生体機能検査法である CAVI 検査をはじめ頸動脈エコー、末梢血管の脈波、血流ドプラ法、自律神経検査など種々の検査法の基礎と応用について学習する。	教授 塩田敦子
	生体機能検査学演習	まず特論で学んだ知識をもとに、閉経後女性の循環生理領域における疾患の病態生理を十分理解し、その基盤の上に立ち病態の本質に迫る基礎的研究能力の習得を目指す。 そして国内外の先行研究の文献抄読、レポート作成を行い、性差医療の発展に役立つような研究課題を見つけ、その研究に必要な検査手法、解析法等についても理解を深め、演習を通じて、臨床に役立つ、安全でエビデンスのある臨床的研究能力をも養うことを目的とする。	教授 塩田敦子
	病態解析検査学特論	本授業では自己抗体の臨床的意義について理解を深める。まず、自己抗体の産生される機序、自己抗体の測定法やその判定法について理解する。次に、自己抗体は診断的意義のみならず、疾患の活動性や予後、治療効果の予測などを反映することもあり、どのような時に自己抗体を測定すべきかについても理解する。さらに、自己抗体は自己免疫疾患のみならずウイルス性疾患や悪性腫瘍など様々な疾患で検出されており、そのような疾患における自己抗体測定の有用性についても学習する。	教授 樋本尚志
	病態解析検査学演習	「肝疾患における自己抗体の有用性」についての最新の研究論文を抄読することによって、病態解析検査学特論で学習した「自己抗体測定の臨床的意義」についての理解をさらに深めるべく演習を行う。また、今後の研究課題に対して必要な実験的手法や臨床的な解析方法、さらには統計処理などについても、この演習を通じて網羅的に習得する。	教授 樋本尚志
病理病態検査学特論	病理学は、臨床医学と基礎医学の架け橋となる学問であり、肉眼的変化や顕微鏡で観察される細胞や組織の形態学的変化を捉えることが必要である。そのため、病理・細胞診断学的な基礎的な能力を養うことを目標とする。また、疾病の形態学的変化と生理学的、生化学的な変化を有機的に結合させ、病気の成因やその発生のメカニズム、及び病理病態に関する幅広い知識を修得する。さらには、これらの解析のために必要な形態学的研究方法や分子病理学的な解析方法についても学習する。	教授 平川栄一郎	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 領 域 科 目	病理病態検査学演習	病理病態学演習においては、疾病による細胞や組織、臓器の形態学的変化の解析にとどまらず、腫瘍、特に前癌病変から癌にいたるまでの変化について、分子病理学的、生化学、分子生物学的な手法を用いて解析、研究を行う。また、国内外の研究論文の抄読を行い、腫瘍の発生、発癌について検討し、また病理病態検査の鑑別診断への応用についても理論的、実践的理解を深める。以上の演習を通じて疾病の本質についての理解を深め、病理病態学的に探究する能力を養う。	教授 平川栄一郎
	血液病態検査学特論	血液疾患の成因、病態、病理像（血液、造血組織、細胞学的、分子学的）を深く追究理解し、疾病の本態について探求する。また、血液検査学の基礎的検査法のみならず、疾患の診断や治療の指標に直結する特異的な検査法について学習するとともに、検査法の応用例、発展性、先端の検査法技術について学習する。これらの知識をもとに、実践現場における血液疾患の予防、早期発見、治療、病態解析における有用な血液検査法について考察する。	教授 眞鍋紀子
	血液病態検査学演習	特論で学習及び考察した実践現場において有用である検査法について討議し、技術理解を深めるとともに、必要な検査法については実習を行う。また、国内外の血液病学・血液検査学に関連する論文分析を行い、研究の動向や方法を習得する。さらに論文解析から血液検査学領域における問題点を探究し、討議するとともに、検査法の応用方法を習得する。新しい検査法の考案などの臨床指向型研究を進行できる総合的判断能力及び研究者としての資質の養成を目的とする。	教授 眞鍋紀子

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病原因子検査学特論	病原微生物による感染症の発症機序や病態解析についての理解を深める。特に感染症の主要な原因となる病原因子の作用機序についての学習を通して、病原因子の本体を探る研究や検査の実態を把握するとともに、新しい検査方法を開発するための基礎的能力を養う。最終的に各論で学習した内容を踏まえて、与えられた課題についてのレポートを作成し、理解を深め、さらに考察する。	教授 奥田 潤
	病原因子検査学演習	感染症を引き起こす病原微生物による様々な病原因子について、その特性や作用機序などを多くの研究論文をもとに学習し、感染症の予防や検査方法の開発につながる知識を深めることを目標として演習を行う。具体的には、配布した研究論文を講読した後、レポート及び口頭試問を行う。さらに、最終的に興味のある研究論文についてまとめを作成し口頭発表を行うことで、発表スライドの作成法や口頭発表の仕方について再確認する。	教授 奥田 潤
	生体防御検査学特論	生体防御システムで重要な自然免疫と獲得免疫に関わる免疫細胞における生体防御機構とエフェクター機能について学習するとともに、免疫関連疾患の原因物質を簡便で的確に診断することが可能な検査法の開発能力を養う。そのため、抗原抗体反応理論、抗体の構造と機能、抗体の分離精製法、標識法など、高感度免疫測定法に関わる内容について理解する。	准教授 行正信康
	生体防御検査学演習	医療はポストゲノム時代を迎え、分子生物学的技術の進歩が病態診断に必要な遺伝子検査を可能にした。生体防御検査においても遺伝子解析は有用であり、その意義を科学的根拠に基づいて理解する必要がある。臨床免疫学領域では、ウイルス感染症の抗原抗体マーカーと核酸検査、HLA 遺伝子型と能動免疫(ワクチン)との関係などを考察することが可能である。ワクチン抗原特異的な免疫応答のメカニズム解析を例にして生体防御反応としての免疫システムを理解する。	准教授 行正信康
	生体化学検査学特論	現在では生活環境、社会生活から受けるさまざまなストレスが原因となり、生体の恒常性が破綻し、各種疾患の原因になっている。また、高齢化等により各種疾患も複雑化し、その病因の解析が要求されるようになった。その中で脂質代謝を取り上げ、脂質代謝の基礎的知識を十分に理解し、動脈硬化性疾患と脂質代謝が病態生理にどのような関わっているかを学ぶ。また酸化・糖化などの変成物質の関連性について理解を深める。さらに動脈硬化と生活習慣や食品との関係について学習する。	准教授 多田達史

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病因解析検査学領域科目	生体化学検査学演習	准教授 多田達史
		生体化学検査学演習においては、動脈硬化とリポ蛋白質代謝や糖代謝に関連する異常リポ蛋白質の関係について考察し、糖尿病やメタボリックシンドロームにおける脂質代謝異常症について学習する。また、国内外の糖尿病合併症を含む動脈硬化に関連した文献調査を行い、臨床化学領域における検査法を学習するとともに、その問題点を理解する。さらに、異常リポ蛋白質、糖化蛋白、終末糖化産物 (AGEs) の検出について、研究の視点や分析方法について理解を深め、新規検査法などを考案できるような研究能力の養成を目的とする。	
		遺伝子検査学特論	教授 中村丈洋
	遺伝子検査学演習	分子生物学及び細胞遺伝学に必須である遺伝子発現と制御、シグナル伝達、細胞周期、腫瘍のメカニズムについて、学部教育をさらに深めて研究する。	教授 中村丈洋

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	臨床検査学特別研究	病態機能検査学領域科目（生体機能検査学、病態解析検査学、病理病態検査学、血液病態検査学）又は病因解析検査学領域科目（病原因子検査学、生体防御検査学、生体化学検査学、遺伝子検査学）の中から希望する研究科目を選択し、当該科目における研究課題の解決方法等について、担当教員の指導のもと修士論文の作成に向けて研究を行う。	
	病態機能検査学領域	SLE などの自己免疫疾患でメタボリックシンドロームやインスリン抵抗性の頻度が高かったり、逆に非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) といった生活習慣病患者の血清から自己抗体が検出されたり、自己免疫現象と代謝異常との関連がにわかに注目を浴びている。また、NASH 患者においては活性化された脂肪細胞から B lymphocyte activating factor (BAFF) の産生が促進されることも最近報告されている。今回、NASH 患者における自己免疫現象とインスリン抵抗性との関連に着目し、客観的に評価できる血清パラメーターを検索していく。	教授 樋本尚志
		(1) 生体機能検査学を用いた代替医療の EBM 検証：性差医療、全人的医療の観点から代替医療が注目されてきている。漢方薬、鍼灸、アロマセラピー等には西洋薬にない効果があることが知られているが、エビデンスの報告が少ない。眼動脈、橈骨動脈の超音波血流ドプラー法、サーモグラフィ、末梢血管脈波、種々の自律神経検査等を用いて、冷えや血流改善効果を解析し、代替医療の効果を実証するようなエビデンスを得たい。それらの抗ストレス効果についても自律神経検査による解析を考えている。 (2) 生殖補助医療に関する研究：生殖補助医療の進歩はめざましく、体外受精においては凍結融解胚移植や胚盤胞移植が当たり前となり、受精卵の胚発育や compaction についてもインキュベータ内で経時的に観察することも可能になっている。不妊治療に携わる病院の協力を得て、受精卵を観察することで良好胚あるいは妊娠率の向上に寄与する因子を検索する。	教授 塩田敦子
		保健医療学は、日常生活に基づく習慣、食生活及び嗜好と関連して起因する疾患との関係を分析し、一般住民が健康に対する概念、実践方法を自立・自覚して取り組めるよう指導する学問の一分野である。特に嗜好とされる喫煙に深く関連した呼吸器疾患を中心とした多数の疾患がある。メタボリック症候群の主原因である動脈硬化のハイリスク要因の一つにも喫煙が挙げられる。その中で青年期から成人期における喫煙行動に対する意識や喫煙行動の解析、禁煙を考える要因や背景の解析などを研究課題とし、研究計画、実践方法を討論し、解析するとともに文献検討を行い、患者教育や看護支援への取り組み方の開発能力を養う。	教授 佐藤 功
		発癌機構について、形態学的、生化学的、分子生物学的変化を含めた分子病理学的手法を用いて解析していく。人体病理材料を用いる場合は、免疫組織化学、免疫細胞化学や Real-time PCR 等の分子病理学的手法を用いて、病的状態における組織、細胞の形態学的変化や分子レベルでの変化について観察を行い、発癌のステップについての解析を行い研究する。また、病理組織学的な癌の早期診断や鑑別診断への応用についても探求する。以上の特別研究を通して、病理病態学的な知識や解析方法を修得し、その理論的な構築をはかり病理病態検査学における研究能力を養う。	教授 平川栄一郎

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	臨床検査学特別研究		
	病態機能検査学 領域	<p>臨床血液検査学分野における実践的な文献検討をもとに、明確にしようとする個々の課題について、研究を行い、新たな知見を論文にする能力を養う。</p> <p>主として担当できる分野は、(1)血液細胞内外の CD マーカー検索による造血器腫瘍診断の応用研究、(2)白血球機能の基礎的臨床研究、(3)サイトカイン等による血球の増殖と分化の制御・遺伝子発現、(4)血小板の活性化とその検査法応用、(5)検査血液学の教育方法に関する研究などである。</p>	教授 眞鍋紀子
	病因解析検査学 領域	<p>感染症を引き起こす病原細菌は病原性を発現するために必要なさまざまな病原因子や、予防や治療として用いられる消毒薬や抗菌薬に対する耐性因子をもっている。そのなかで、研究対象として、病原細菌が針状の III 型分泌装置を用いて宿主細胞に直接注入するエフェクタータンパク質や病原細菌が菌体外に分泌する外毒素などの病原因子、あるいは、消毒薬や抗菌薬に対する耐性に着目し、現在その作用機序等の実態がまだ解明されていないものにつき、研究を進める。そのような研究活動を通じて、病原因子や薬剤耐性に関する基礎的研究能力を養うとともに、感染症検査、予防、治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。</p>	教授 奥田 潤
		<p>ヒト全ゲノム配列の解析研究が一段落し、21 世紀の新たな医療として、個別化医療の研究が著しい発展を遂げている。一方、遺伝子関連検査はプロセスが複雑であるため、院内実施が困難で外部委託が一般的である。最近、末梢血を用いた遺伝子関連検査が可能となっている。遊離 DNA、マイクロ RNA あるいは遺伝子を構成するヌクレオシドが血漿中に安定して存在していることから、末梢血を用いてこれらの定量を容易に行うことが可能である。今後、これらが様々な疾患に対する biomarker としての有用性が期待されている。本研究では、末梢血サンプルを用いた遺伝子関連 biomarker の開発について研究を行う。</p>	教授 中村丈洋
		<p>てんかんやパーキンソン病等の神経変性疾患の発症メカニズムの解明のため、疾患モデル動物を用いて、生化学的、電気生理的手法により研究を行う。これら疾患の発症・進展においては、環境因子による酸化障害が重要な要因の一つであることが明らかになってきている。そこで環境化学物質や食品成分による発症や病態の進展、若しくは予防効果について、検討を行う。さらにこれら物質による生体の持つ活性酸素種の生成及び消去機構に対する影響を測定することにより、活性酸素種のこれら神経変性疾患における役割を解析する。以上の特別研究を行うことにより、実験動物を用いた基礎的な研究能力を養う。</p>	教授 加太英明
	<p>てんかんの病因において、遺伝の重要性が指摘されている。てんかんにはさまざまなタイプが存在し、最近そのいくつかに関して、関連の遺伝子が特定された。しかしながら、てんかんの大部分に関しては、未だ関連する遺伝子やその働きのメカニズムは明らかにされていない。過去の「家族研究」といわれる手法を用いた研究では、てんかんのメカニズムに遺伝子とグルタミン酸のかかわり合いが指摘されている。しかし、その結果に多く矛盾があるため、未だ結論が出ていない。そこで本研究では、患者グループの均質性と、得られた結果の違いの原因と考えられている他の要素を制御することに焦点を合わせて検討を行い、てんかんの遺伝学的・生化学的メカニズムを明らかにすることを目的とする。</p>	教授 ジャンジュアナジマ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
臨床検査学特別研究	病因解析検査学領域	<p>寿命を決定する因子について近年多くのことがわかってきた。その中のひとつであるインシュリンシグナル経路は進化的に保存性が高い。この経路上にある転写因子 FOXO ファミリーの生理機能について検討する。特に血管系と神経系での役割について、欠損マウスを用いた形態学的、生化学的、分子生物学的な手法により明らかにする。以上の特別研究を通して基礎的な研究能力を養う。</p>	教授 古山達雄
		<p>「機能性栄養素・食品と健康」に関する研究課題について、その栄養素・食品の、生体又は病態への影響のメカニズムを解明する事を目的とする。特に生活習慣病の改善効果が報告されている健康食品や栄養素類に焦点をあて、人体サンプル、病態動物モデル等を用い、生化学的、分子生物学的、病理学的手法により解析する。疾病や生体内代謝に関連した知見や解析方法を修得し、理論的な考察を行うことにより、病因解析研究の能力を養うことができる。</p>	准教授 山主智子
		<p>脂質代謝異常がアテローム性動脈硬化症を引き起こすことはよく知られている。リン脂質の2本の脂肪酸鎖のうち1本が切り出されたリン脂質をリゾリン脂質といい、生理活性を持つものがあるが、特に動脈硬化症との関連が深いとされているリゾホスファチジルコリン(LPC)、リゾホスファチン酸(LPA)、スフィンゴシン 1 リン酸(S1P)等及びこれらを産生するといわれているホスホリパーゼ A2 ファミリーに属する血小板活性化因子アセチルヒドロラーゼ(PAF-AH)活性と、脂質検査項目特に small dense LDL や酸化 LDL との関連性について研究を行い、動脈硬化症のリスクを評価する方法を確立する。</p>	准教授 立石謹也
		<p>近年、レムナントリポ蛋白などの動脈硬化惹起性リポ蛋白質が注目されている。特に粒子径が 25.5nm 未満の small dense LDL は高中性脂肪血症との関連性が強く、大型の異常 VLDL 代謝が注目されている。一方、リポ蛋白代謝と血小板などの血液細胞機能との関係も研究されてきている。臨床化学検査学領域における分析技術を用いて、糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する疾患の予防・早期発見、治療につながる新規臨床検査項目に関する研究を行い、分析技術的研究開発を目指す。</p>	准教授 多田達史
		<p>免疫とは、病原微生物などによる外からの攻撃や、がん細胞などによる内からの破綻から生体を守る機能である。免疫のはたらきを最も効果的に医療に活用し生まれたのがワクチンによる能動免疫法である。B 型肝炎ウイルス (HBV) 感染症の予防のため、特に医療従事者に対し、HB ワクチン接種が行われている。しかし、免疫機能の個人差のため、HBV の中和抗体である HBs 抗体産生が十分でない場合が存在する。このワクチン免疫不応答の原因解明を目的に研究を進める。また、B 型肝炎の診断や病態把握には HBV 抗原抗体マーカーや核酸検査が応用されている。これら HBV 関連検査データの詳細な解析や評価、さらに、ワクチン免疫不応答予測検査等、新しい HBV 関連検査の確立をめざす。</p>	准教授 行正信康

この封筒には、次の出願書類等が入っています。

大学院保健医療学研究科学生募集要項

- ◎ 入学願書・写真票・受験票
- ◎ 納付書（兼）証券領収書控え・証券領収書
- ◎ 志願理由書
- ◎ 在職期間証明書
- ◎ 出願資格審査申請書
- ◎ 受験票等返送用封筒
- ◎ 出願書類提出用封筒

平成 29 年度香川県立保健医療大学大学院保健医療学研究科

入 学 願 書

受験番号	*
受験区分	一般 社会人

(フリガナ) 氏名	姓		名		性別 1 男 2 女	
生年月日	西曆		年	月	日生	
志望専攻	看護学専攻			臨床検査学専攻		
	研究コース	1 基盤開発看護学領域 2 健康生活支援看護学領域 3 次世代育成看護学領域		1 病態機能検査学領域 2 病因解析検査学領域		
		専門看護師コース	精神看護			
出願資格	(1) 大学		大学 学部	西曆	年 月	
	(2) 専修学校					卒業 (修了、授与)
	(3) 各種学校		学校	卒業 (修了、授与) 見込み		
	(4) その他		学校			
			出願資格審査 認定番号			
免 許	1 看護 師	年 月 日	取得	(免許番号)	
	2 保 健 師	年 月 日	取得	(免許番号)	
	3 助 産 師	年 月 日	取得	(免許番号)	
	4 臨床検査技師	年 月 日	取得	(免許番号)	
連 絡 先	現住所	フリガナ				
		住 所	〒□□□□-□□□□			
		電 話	()	—	携帯	
	合 格 通知先	フリガナ				
		住 所	〒□□□□-□□□□			
	電 話	()	—	携帯		

香川県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科入学試験		
平成 29 年度 写真票		
受験番号	*	
フリガナ		
氏 名	男・女	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>写 真</p> <p>縦 4cm×横 3 cm</p> <p>正面上半身 無帽・無背景 3 か月以内に 撮影したもの</p> </div>		

切り離さないでください。

切り離さないでください。

香川県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科入学試験		
平成 29 年度 受験票		
受験番号	*	
フリガナ		
氏 名	男・女	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>写 真</p> <p>縦 4cm×横 3 cm</p> <p>正面上半身 無帽・無背景 3 か月以内に 撮影したもの</p> </div>		

受験番号*

納付書（兼）証券領収書控え

納付金額：30,000 円（証券納付）

平成 28 年度歳入 一般会計

納付目的：平成 29 年度香川県立保健医療大学入学選考料

証券の種類：普通為替証券

記号番号

上記のとおり、納付します。

納入者	住所	
	氏名	

領収年月日：平成 年 月 日

香川県
割 印

(注) 太枠線内のみ記入してください。

受験番号*

証券領収書

領収金額：30,000 円（証券納付）

平成 28 年度歳入 一般会計

納付目的：平成 29 年度香川県立保健医療大学入学選考料

証券の種類：普通為替証券

記号番号

上記の証券を領収しました。

納入者	住所	
	氏名	様

領収年月日：平成 年 月 日

香川県立保健医療大学出納員 印

(注) 太枠線内のみ記入してください。

切り取り線

[記入上の注意事項]

- 必要事項を記入の上、普通為替証券とともに出願書類に添えて送付してください。
- 「納付書（兼）証券領収書控え」と「証券領収書」は切り離さないでください。
- 太枠線の「記号番号」の欄には、普通為替証券の記号番号を記入してください。
- 「納入者」の欄の太枠線部分には、志願者本人の住所・氏名を記入してください。

平成 29 年度香川県立保健医療大学大学院保健医療学研究科

在 職 期 間 証 明 書

整理番号	*
------	---

香川県立保健医療大学長 様

施 設 名

施設の長(代表者)の氏名

印

所 在 地

次の者について、記載のとおり実務者として在職している（又は在職していた）ことを証明します。

記

フリカ`ナ 1 氏 名	
2 在職期間	年 月 ～ 年 月
3 職 種	
4 勤務形態	① 常 勤 ② 非常勤 (1日当たり 時間、 週 日勤務)

(注1) ここでの在職期間は、看護師、保健師、助産師又は臨床検査技師のいずれかの資格による実務者としての勤務期間をいいます。

(注2) 勤務形態については、常勤又は非常勤のどちらかに○をつけ、非常勤の場合は、() 内も記入してください。

(注3) 複数の施設からの証明が必要な場合は、あらかじめこの用紙をコピーして使用してください。

平成29年度香川県立保健医療大学大学院保健医療学研究科

出願資格審査申請書

整理番号	*
申請区分	一般 社会人

(フリガナ) 氏名	姓		名		性別	1 男 2 女		
生年月日	西暦		年	月	日生			
志望専攻	看護学専攻				臨床検査学専攻			
	研究コース	1 基盤開発看護学領域 2 健康生活支援看護学領域 3 次世代育成看護学領域			1 病態機能検査学領域 2 病因解析検査学領域			
	専門看護師コース	精神看護						
履 歴 事 項	学 歴	年	月	～	年	月	高等学校	
		年	月	～	年	月		
		年	月	～	年	月		
		年	月	～	年	月		
	実務経験 (職歴)	期 間	勤務先・所属		具体的な職名とその職務内容			
		年	月	～				
		年	月	～				
		年	月	～				
		年	月	～				
	免 許	1 看 護 師	年	月	日	取得	(免許番号)
		2 保 健 師	年	月	日	取得	(免許番号)
		3 助 産 師	年	月	日	取得	(免許番号)
		4 臨床検査技師	年	月	日	取得	(免許番号)

(裏面に続く)

(裏面)

履 歴 事 項	そ の 他 参 考 事 項	<input type="checkbox"/> 英語検定 級 (<input type="checkbox"/> TOEFL(CBT) 点 <input type="checkbox"/> TOEIC 点 <input type="checkbox"/> その他)	
		<input type="checkbox"/> 学会発表 ()	
		<input type="checkbox"/> 論文発表 ()	
		<input type="checkbox"/> 研修学校 (<input type="checkbox"/> 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 看護協会 <input type="checkbox"/> 都道府県 <input type="checkbox"/> その他)	
		<input type="checkbox"/> 継続教育 (<input type="checkbox"/> 看護管理者養成課程 <input type="checkbox"/> 認定看護師教育課程)	
		<input type="checkbox"/> その他	
連 絡 先	現住所	フリガナ	
		住所	〒□□□-□□□□
		電話	() -
	審 査 結 果 通 知 先	フリガナ	
		住所	〒□□□-□□□□
		電話	() -

保健医療学研究科入学試験出願書類等チェック票

<p>出願書類等は、下表のチェック欄でチェックのうえ、「書留速達郵便」で郵送または、「直接持参」してください。 なお、書類等は、1から9の順に重ねてください。</p>		
	書 類 等	チェック欄
1	入学願書・写真票・受験票（切り離さない）	
2	入学選考料（次の2点を同封） ・30,000円の普通為替証書 ・納付書（兼）証券領収書控え・証券領収書	
3	卒業・修了（見込）証明書	
4	成績証明書（厳封したもの）	
5	学士の学位授与（見込）証明書等	
6	志願理由書	
7	在職期間証明書	
8	免許証の写し（A4サイズに縮小したもの）	
9	受験票等返送用封筒（392円分の切手を貼付すること）	
10	戸籍抄本	
※	上記のうち3、4、7、8及び10については、事前に出願資格審査で提出した場合は提出不要です。	

切手392円分
を貼付する
こと。



(氏
名)

(住
所)

(受験票在中)

簡易書留

様

(返送用封筒)

香川県立保健医療大学

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原281番地1

TEL 087-870-1212

受験 番号	※
----------	---

※記入しないでください。

*The Graduate School of
Kagawa Prefectural University of
Health Sciences*



香川県立保健医療大学

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212